

2026J01	基礎分野	形式	講義
授業科目名	栄養学	単位数	2
担当教員	小谷 鷹哉	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 生物が生命現象を営むということは、生体内で代謝が行われていることをあらわし、代謝に必要な物質を生体内に取り込み、不要になった物質を排泄している。この現象が栄養である。本授業では、心身の健康の保持・増進、疾病の予防のため、栄養素の構造と機能、消化・吸収のメカニズム、代謝といった、柔道整復師として必要とされる生理学的な基礎知識について学修する。さらに応用として、スポーツ活動時におけるコンディショニングや、さまざまな目的を達成するための具体的な栄養摂取法についても学修する。本授業では、栄養の意義、健康の維持における栄養の役割、ライフステージに応じた適切な食事、さらに、スポーツと栄養に関する基礎的な知識を習得し、説明できることをねらいとする。			
【授業計画】 ①栄養学とは、栄養素の分類 ②エネルギーの摂取と消費 ③糖質の消化と吸収 ④糖質の貯蔵と利用 ⑤脂質の消化と利用 ⑥脂質の貯蔵と利用 ⑦タンパク質の消化と吸収 ⑧小テスト、解答解説 ⑨サプリメント ⑩骨格筋におけるタンパク質代謝 ⑪サプリメントの種類・摂取 ⑫骨格筋ミトコンドリアの適応機序の理解と応用 ⑬肥満と脂肪による熱産生 ⑭アスリートにおける目的別の栄養管理 ⑮試験解説、アスリートの食事管理の実際			
学習上の注意	授業内容をよく見直してください。本授業で学んだ知識を活かして、食事やトレーニングの立案・改善に関する助言や実践ができることを求めます。		
評価方法	授業への取り組み状況,小テスト(40%), 前期末試験(60%)により総合的に評価します。前期末試験の60%以上の得点をもって合格とします。		
教科書 ・ 参考書	—		

2026J02	基礎分野	形式	講義
授業科目名	自然科学	単位数	4
担当教員	吉田 裕輝	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】 科学的な思考・知識を身につけることは、柔道整復師にとって医療に携わる上で、必要不可欠な要素である。この授業では、特に自然科学の中でも生物学、化学を中心に構成する。高校までで学習した内容も振り返りながら進行していくが、最新の科学的知見や研究により明らかになってきたメカニズムの紹介も行っていく。国家試験に直接つながる内容を多く実施していく為、医学系の専門科目や専門基礎科目を学ぶ際の基礎知識として必要不可欠なものである。授業は單元ごとに進めていくが、1年を通してこの講義を聴くことで、それぞれの単元のつながりや関わり合いが見えてくることが期待される。そうなることによって、知識の習得のみにとどまらず、生物学の面白さを感じられることを目指している。			
【授業計画】 ①授業概要、人体を構成する要素 生命の単位 ②細胞のはたらき 細胞小器官 ③細胞のはたらき 膜の構造,細胞骨格 ④遺伝子発現からタンパク合成過程(セントラルドグマ) ⑤物質の輸送(受動輸送と能動輸送) ⑥組織と器官 上皮組織、支持組織 ⑦組織と器官 筋組織、神経組織 ⑧小テスト、解答解説 ⑨組織と器官 神経組織 ⑩ヒトを形づくる元素 糖質の種類とその化学構造 ⑪脂質の種類とその化学構造 ⑫アミノ酸とたんぱく質の種類とその化学構造 ⑬DNA,RNAの化学構造 ⑭核酸関連物質の化学構造 ⑮前期期末試験解答解説、前期まとめ ⑯エネルギー代謝とATP合成 ⑰細胞分裂① 体細胞分裂 ⑱細胞分裂② 減数分裂 ⑲遺伝① メンデル遺伝と形質発現の仕組み ⑳遺伝② 遺伝子異常とその疾患 ㉑遺伝③ 染色体数の異常と疾患 ㉒発生と分化 ㉓消化と消化管の基本構造 ㉔消化酵素とその産生臓器 ㉕消化に関与するホルモン ㉖栄養素の吸収			
学習上の注意	復習に重点を置いて学習すること。私語は慎むこと。 指示した時以外はスマートフォン、タブレット、パソコン等の使用は禁止する。		
評価方法	前期評価は期末試験90%、小テスト10%とする。後期評価は期末試験80%、小テスト20%とする。 後期は原則毎週授業の開始に小テストを行う。原則前期と後期の評価の平均を総合評価とする。		
教科書 ・ 参考書	教科書”全国柔道整復学校協会監修 「生理学」(南江堂)「解剖学」(医歯薬出版)” 参考書基礎的内容の理解が不十分な学生は各自必要に応じて高校生物の参考書等を利用することが望ましい。		

2026J03	基礎分野	形式	講義
授業科目名	保健学	単位数	4
担当教員	木村 直人・菱沼 良平	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】 保健学の意図するところは、人々の疾病を予防し、健康の維持・増進をはかり、延命をもはかる科学である。本校における保健学は、前期に人体の各器官系の構造と機能を学び、前期に学習した衛生学を基礎とし、健康の保持・増進への理解を深める。			
【授業計画】 ①脈管系の構造・機能①(心臓・血管の生理) ②脈管系の構造・機能②(循環の調節) ③消化器系の構造・機能①(消化管の構造) ④消化器系の構造・機能②(消化・吸収の生理) ⑤呼吸器系の構造・機能①(気道・肺の構造) ⑥呼吸器系の構造・機能②(ガス交換・呼吸運動) ⑦泌尿器系の構造・機能①(腎臓の構造) ⑧泌尿器系の構造・機能②(尿生成・排泄) ⑨生殖器系の構造・機能①(男性生殖器) ⑩生殖器系の構造・機能②(女性生殖器・受精) ⑪内分泌器系の構造・機能①(ホルモンの種類) ⑫内分泌器系の構造・機能②(フィードバック機構) ⑬神経系の構造・機能①(中枢神経) ⑭神経系の構造・機能②(末梢神経・伝導路) ⑮感覚器系の構造・機能 ⑯健康の捉え方(健康の定義) ⑰健康の捉え方(歴史的変遷) ⑱健康の捉え方(WHO、健康日本21) ⑲健康に関わる統計① ⑳健康に関わる統計② ㉑健康のとらえ方(外因と内因) ㉒生活習慣病について ㉓中間試験、解答解説 ㉔健康づくり(運動、栄養、休養) ㉕健康づくり(運動、栄養、休養) ㉖健康と喫煙			
学習上の注意	前期は解剖生理学的な知識が中心となります。 後期は健康に関する基礎的内容を講義し、将来の国家試験(衛生学公衆衛生学)の基礎を固める。		
評価方法	前期は期末試験100% 小テストの実施状況や授業態度を成績評価に加味することがあります。 後期は出席回数、試験で評価する。		
教科書 ・ 参考書			

2026J04	基礎分野	形式	講義
授業科目名	コミュニケーション	単位数	2
担当教員	関 明子	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 基本的な「読む」「書く」「聴く」「話す」コミュニケーション能力を習得する。 1. 誤読をしない力をつける。 2. 適切な資料を選択し、その内容を必要に応じて文章化できるようにする。3. 誠実かつ正確に聞き取る。4. 話す場合も書く場合も「話の流れ」を意識する。 表現する前に「考える」習慣をつけてほしい。特に文字となったものは後に残る。したがって、話すとき以上に書くときは慎重にならざるを得ない。また、書いたものを自分で読み返すことで考えが整理されることも多い。そのため、4つの能力のうち「書く」ことにやや大きい比重を置くつもりである。基礎をしっかりと身につけてほしい。			
【授業計画】 ①文(箇条書き)から文章へ ②コロケーション ③ 敬語(尊敬語と謙譲語を中心に) ④プレゼンテーションとは ⑤プレゼンテーションのための基礎知識 ⑥プレゼンテーションの実際と質疑応答(1) ⑦プレゼンテーションの実際と質疑応答(2)反省と推敲 ⑧プレゼンテーションの実際と質疑応答(3)「語ること」と「書く」こと ⑨読解: 要点を意識する ⑩論述: 論理的に述べる ⑪論述: 客観性について考える・資料の探し方 ⑫手紙文の基礎 ⑬手紙文を書く ⑭ビジネスレター ⑮前期末試験解説			
学習上の注意	授業では実際に手を動かしてもらうので、必ず筆記用具は持参すること。筆記用具はボールペンや万年筆がのぞましいが、濃く書ければ鉛筆・シャープペンシルも可。授業中の私語、スマホ、携帯電話の使用、飲食および、他学生の学習の妨げとなる行為は禁止する。ただし、授業の必要性からスマホによる検索は許可する場合もある。		
評価方法	出席率(遅刻率)と参加態度20%、授業中の課題10%、プレゼンテーション20%、期末試験50%		
教科書 ・ 参考書	教科書なし。その都度プリントを配布する。 参考書授業中、適宜紹介する。		

2026J05	基礎分野	形式	講義
授業科目名	医療英語	単位数	2
担当教員	坂井 成美	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 ①柔道整復の医療環境で使用される一般的な語彙、また、専門的分野で必要な語彙を増やすことができる。 ②比較的易しい英文の意味を正しく理解できるようになる。 ③使用頻度の高い会話表現を声に出して練習することで、英語で患者さんとコミュニケーションができるようになる。			
【授業計画】 ①ガイダンス ②柔道整復について説明するための表現 ③受け付けのための表現 ④患者の主訴を理解するための表現 ⑤身体観察・評価のための表現 ⑥評価の告知のための表現 ⑦施術開始時、施術時の表現 ⑧整復の施術のための表現 ⑨固定の施術のための表現 ⑩物理療法の施術のための表現 ⑪運動療法の施術のための表現 ⑫手技療法の施術のための表現 ⑬処置・施術後の表現 ⑭会計のための表現 ⑮総括と展望。これまでの学習内容の要旨を確認。			
学習上の注意	授業計画は進度によって変更することがありますので、毎時の指示に注意してください。 授業では、google classroomを使用します。初回授業でgoogle classroomの使い方を説明します。授業ではパソコンまたはスマートフォンを使用して課題提出してもらいます。		
評価方法	毎授業時、英文の書き取り、単語テストと音読の提出の課題が課されます。これらの課題提出の状況:60%、期末試験の結果:40%で総合評価します。		
教科書 ・ 参考書	教科書『柔道整復師のための英会話表現』塩川春彦著 医歯薬出版 2022年発行 ISBN978-4-263-24093-9 C3047		

2026J06	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	解剖学1	単位数	4
担当教員	川島 友和	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】 前期中間試験までの講義では、『人体解剖学総論』として、関連領域の理解のための導入としてそれらの概要を学ぶ。前期後半部より、『人体解剖学各論』として各器官系の学習を開始する。解剖学1では、脈管系、消化器系について学習する。各論の授業では、板書を通じて人体の各構造物を形態学的(視覚的に)にその立体構造を理解する事が最重要事項とする。講義の各器官系講義が終了後、可能な限り国家試験過去問題の解説等も行う予定である。			
【授業計画】 ①解剖学概論①(意義、役割、各器官系概要) ②解剖学概論②(細胞、組織、発生) ③骨格系総論 ④筋系・末梢神経系総論 ⑤脈管系総論 ⑥消化器系・呼吸器系総論 ⑦泌尿器生殖器系・感覚器系・内分泌系総論 ⑧中枢神経系総論 ⑨総論まとめと復習 ⑩脈管系各論1(心臓1) ⑪脈管系各論2(心臓2) ⑫脈管系各論3(大動脈本幹とその枝) ⑬脈管系各論4(大静脈本幹とその枝) ⑭まとめと復習、試験対策 ⑮解答・解説 ⑯脈管系各論5(四肢の脈管系) ⑰脈管系各論6(頭頸部の脈管系) ⑱脈管系各論7(胎児循環・皮静脈) ⑲脈管系各論8(リンパ系)、脈管系 ⑳脈管系各論9(まとめ) ㉑消化器系各論1(口腔1) ㉒消化器系各論2(口腔2) ㉓消化器系各論3(咽頭、食道、胃1) ㉔消化器系各論4(胃～小・大腸) ㉕消化器系各論5(消化管の鑑別) ㉖消化器系各論6(肝臓)			
学習上の注意	毎回の配布プリントを持参し、参考とする事。板書の際に、12色の色ペンもしくは色鉛筆を使用するので用意する事。 講義中の私語や立ち歩きを禁止する。トイレは授業前に済ませておくこと。		
評価方法	期末試験90%、出席・態度10%		
教科書 ・ 参考書	教科書『解剖学』全国柔道整復学校協会 編(医歯薬出版)		

2026J07	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	解剖学2	単位数	4
担当教員	川島 友和	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】 解剖学2では、呼吸器系・泌尿生殖器系・感覚器系・神経系といった臓性構造である内臓学各論の学習を行う。人体発生学・比較解剖学背景やそれらの臨床的意義にも注意を払いながら、黒板への板書や補助配布プリントを利用し、人体立体構造を理解することを目的とする。前後期末試験や国家試験においては様々な解剖学用語を知る事は重要であるが、少なくとも授業では板書を通じて人体を立体構造を理解する事が最重要事項としている。各器官系終了後、可能な限り国家試験過去問題の解説等も行う予定である。			
【授業計画】 ①呼吸器系各論1（外鼻、鼻腔） ②呼吸器系各論2（咽頭、喉頭） ③呼吸器系各論3（気管、気管支） ④呼吸器系各論4（肺、胸膜） ⑤呼吸器系各論5（横隔膜）、呼吸器系 ⑥泌尿器系各論1（腎臓の構造、腎筋膜） ⑦泌尿器系各論2（尿管、膀胱、尿道） ⑧生殖器系各論1（発生、男性生殖器1） ⑨生殖器系各論2（男性生殖器1、女性生殖器） ⑩生殖器系各論3（生殖器対応関係）、泌尿生殖器 ⑪感覚器系各論1（外皮、視覚器1） ⑫感覚器系各論2（視覚器2） ⑬感覚器系3（聴覚平衡覚器） ⑭感覚器系4：（味覚器、嗅覚器）、感覚器 ⑮解答・解説 ⑯中枢神経系各論1（区分、発生、構成） ⑰中枢神経系各論2（脳幹～大脳1） ⑱中枢神経系各論3（大脳2、脳室、脳脊髄液） ⑲中枢神経系各論4（硬膜静脈洞、伝導路）、脳神経 ⑳中枢神経系各論5（まとめ）、中枢神経系 ㉑末梢神経系各論0（体幹部の神経） ㉒末梢神経系各論2（頸部の神経、上肢の神経1） ㉓末梢神経系各論3（上肢の神経2） ㉔末梢神経系各論4（下肢の神経） ㉕末梢神経系各論5（頭部、顔面部の神経） ㉖末梢神経系各論6（自律神経系）			
学習上の注意	毎回の配布プリントを持参し、参考とする事。板書の際に、12色の色ペンもしくは色鉛筆を使用するので用意する事。 講義中の私語や立ち歩きを禁止する。トイレは授業前に済ませておくこと。		
評価方法	期末試験90%、出席・態度10%		
教科書 ・ 参考書	教科書『解剖学』全国柔道整復学校協会 編（医歯薬出版）		

2026J08	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	解剖学3	単位数	4
担当教員	佐藤 二美	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 国家試験の出題基準に基づいて講義を構成している。まず解剖学で用いる基本的な用語を説明したのち、各器官系の名称、構成、形態学的特徴、体内での位置に関する講義を行う。本講義は1～2年で学んだ解剖学の知識の総復習であり、演習問題を通じて、国家試験で必要とされる解剖学的知識の確実な修得をめざす。			
【授業計画】 ①人体解剖概説(用語・細胞・発生) ②運動器系1(総論) ③運動器系2(頭頸部の骨・筋) ④運動器系3(体幹の骨) ⑤運動器系4(体幹の筋) ⑥運動器系5(上肢の骨) ⑦運動器系6(上肢の筋) ⑧運動器系7(下肢の骨) ⑨運動器系8(下肢の筋) ⑩循環器系1(心臓) ⑪循環器系2(動脈) ⑫循環器系3(静脈、リンパ) ⑬消化器系1(消化管) ⑭消化器系2(肝・胆・膵) ⑮前期期末試験解説 ⑯呼吸器系 ⑰泌尿器系 ⑱生殖器系 ⑲内分泌系 ⑳神経系1(中枢神経系1) ㉑神経系2(中枢神経系2) ㉒神経系3(末梢神経系1 脳神経) ㉓神経系4(末梢神経系2 脊髄神経) ㉔神経系5(自律神経系) ㉕後期期末試験解説 ㉖感覚器系①(外皮・視覚器)			
学習上の注意	プリント等を配布する。演習問題を講義内あるいは講義前・後に予習・復習問題として課す。		
評価方法	前期及び後期期末試験に、演習問題の実施状況を加味して評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書『解剖学』全国柔道整復学校協会 編(医歯薬出版)		

2026J09	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	生理学1	単位数	4
担当教員	池本 英志	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】 生理学は、人体の機能とそのメカニズムを追及する学問です。ヒトは刻々と変化する環境に対応して、生命の維持を図らなければなりません。そのため人体にはさまざまな器官があり、一定の働きを持った器官ごとにまとまって「系」を形成しています。1年次では内分泌系、筋・骨格系、循環器系、呼吸器系を中心にそれぞれの機能を学びます。またそれらの系は環境変化に対して別々に働いているのではなく、お互いに連携しあって機能していることも学びます。			
【授業計画】 ①ガイダンス 生理学の基礎 ②内分泌① ホルモン的一般の性質 ③内分泌② 甲状腺のホルモン ④内分泌③ 副腎皮質のホルモン ⑤内分泌④ 副腎髄質のホルモン ⑥内分泌⑤ 膵臓のホルモン ⑦内分泌⑥ 性腺のホルモン ⑧小テスト(解説などのフィードバックを含む) ⑨内分泌⑦ 視床下部のホルモン ⑩内分泌⑧ 下垂体のホルモン ⑪内分泌⑨ 副甲状腺のホルモン ⑫骨① 骨の構造・形成 ⑬骨② カルシウム代謝の調節 ⑭筋肉① 筋の種類と特徴 ⑮試験解説 ⑯筋肉② 筋収縮のメカニズム ⑰筋肉③ その他 ⑱循環器① 心臓の機能 ⑲循環器② 心筋の興奮性 心電図 ⑳循環器③ 血管系 ㉑循環器④ 血圧 ㉒循環器⑤ 循環の調節 ㉓小テスト(解説などのフィードバックを含む) ㉔呼吸器① 呼吸器の構造 換気 ㉕呼吸器② 血液中の酸素・二酸化炭素の運搬 ㉖呼吸器③ 呼吸の調節			
学習上の注意	将来の職業を柔道整復師と決めた学生が多いと思います。 他の学生が学ぶ環境を妨げないように、私語は慎んで下さい。		
評価方法	小テスト(10%)、各期末試験(80%)、授業への取り組む姿勢(私語・離席の有無、小テスト・定期テストへの誠実な取り組み:10%)を元に総合的に評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書全国柔道整復学校協会監修 「生理学」(南江堂)		

2026J10	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	生理学2	単位数	4
担当教員	浅野 和仁	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】 概要:ヒトが生命を維持していくためには、様々な環境変化に対応していく必要があり、この機能は神経系と感覚系に依っている。また、生命維持のためには外界からエネルギー源となる物質を取り込む必要がある。本講義では、生体の環境適応機序とエネルギー源摂取機序を学ぶとともに生命活動によって生成された老廃物の排泄方法を理解する。 到達目標:生命活動を維持するために必要な環境適応機序と体内環境の一定化機序の関連性を総合的に理解する。			
【授業計画】 ①神経① 神経の区分、静止膜電位と活動電位 ②神経② 興奮の伝導と伝達、シナプス ③自律神経① 自律神経の機能 ④自律神経② 自律神経と内臓機能調節 ⑤中枢神経① 中枢神経の区分と機能 ⑥中枢神経② 中枢神経と反射、運動の調節 ⑦感覚の種類、刺激の受容と受容器の機能 ⑧体性感覚① 触・圧・振動感覚 ⑨体性感覚② 温度感覚、痛覚 ⑩体性感覚③ 体性感覚伝導路 ⑪特殊感覚① 嗅覚と伝導路 ⑫特殊感覚② 味覚と伝導路 ⑬特殊感覚③ 聴覚、平衡感覚と伝導路 ⑭特殊感覚④ 視覚と伝導路 ⑮前期試験解説と要点のまとめ ⑯消化と吸収① 口腔内消化と唾液、唾液分泌機序とその調節 ⑰消化と吸収② 胃の消化と胃液、胃液分泌機序とその調節 ⑱消化と吸収③ 小腸の消化と膵液、膵液分泌機序 ⑲消化と吸収④ 肝臓の機能と胆汁、胆汁分泌機序 ⑳消化と吸収⑤ 嚥下と消化管運動、排便機序 ㉑栄養と代謝① 糖質の代謝、解糖系、TCA回路 ㉒栄養と代謝② 脂質の代謝、 β -酸化 ㉓栄養と代謝③ タンパク質の代謝、オルニチン回路 ㉔栄養と代謝④ 酵素と酵素反応 ㉕栄養と代謝⑤ 窒素化合物の代謝、ビタミン ㉖栄養の保持と視床下部			
学習上の注意	疑問点は授業中に積極的に質問し、解決すること。 スマホ等の通信機能を有する電子機器の授業中の使用は厳禁とする。		
評価方法	出席は定期試験受験のための必要条件であるが、評価には使用しない。 授業時間内に行う不定期の小テスト(実施1週間前に事前通告する)20%、定期試験80%によって評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書指定しない。配布したプリントあるいはPDFファイルを使用する。 参考書全国柔道整復学校協会監修「生理学」		

2026J11	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	生理学3	単位数	4
担当教員	浅野 和仁・吉田 裕輝	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 概要: 生体が正常な機能を維持するためには体内部の環境を一定にする(ホメオスタシスの維持)とともに体外から侵入してくる異物から体を守る必要がある。これらの生体機能は血液と免疫系によって担われている。また、ホメオスタシスの維持には神経系や内分泌系も重要な役割を果たしている。本講義では、血液や免疫系の機能について学習するとともにホメオスタシス維持機構について総合的に学ぶ。 到達目標: 生体を構成している運動器系、循環器系、呼吸器系等が相互に連携し、生命維持に関わっていることを理解する。			
【授業計画】 ①腎と酸塩基平衡① 酸とは、塩基とは ②腎と酸塩基平衡② 酸塩基平衡調節機序 ③水分保持機構と腎機能、渇き中枢 ④血液① 血液とその機能 ⑤血液② 血液の成分とその機能、血液型 ⑥血液③ 赤血球の構造と機能、赤血球の破壊とビリルビン代謝 ⑦血液④ 止血と血液凝固機序 ⑧血液⑤ 白血球の種類と機能 ⑨免疫① 生体防御反応と免疫、免疫担当細胞 ⑩免疫② 自然免疫と獲得免疫、免疫反応発現機序 ⑪免疫③ 液性免疫と細胞性免疫 ⑫免疫④ 自己免疫疾患とその発現機序 ⑬免疫⑤ アレルギーと移植の拒絶反応発現機序 ⑭生殖と老化①、生殖と生殖関連ホルモン ⑮前期試験解説 ⑯生理学基礎1 ⑰生理学基礎2 ⑱酵素 ⑲糖代謝1 ⑳糖代謝2 ㉑糖代謝3 ㉒脂質代謝 ㉓タンパク質代謝 ㉔筋の生理 ㉕後期期末試験解説 ㉖骨の生理			
学習上の注意	疑問点は授業中に積極的に質問し、解決すること。 スマホ等の通信機能を有する電子機器の授業中の使用は厳禁とする。		
評価方法	出席は定期試験受験のための必要条件であるが、評価には使用しない。 前期は授業時間内に行う不定期の小テスト(実施1週間前に事前通告する)20%、定期試験80%によって評価する。後期は定期試験によってのみ評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書指定しない 参考書参考書: 全国柔道整復学校協会監修「生理学」		

2026J12	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	運動学	単位数	2
担当教員	又吉 啓太	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 解剖学・生理学で学んだ“運動器の構造と機能”に関する理解をもとに、運動学の概念、力学の身体運動への応用、運動生理、身体の発育・発達、運動学習など、人の運動行動を幅広く学習します。これらを理解し、説明できるようになることを到達目標とします。			
【授業計画】 ①運動学総論（基本姿勢・運動の面と軸） ②身体運動と力学（運動の種類等） ③身体運動と力学（てこの構造） ④身体運動と力学（滑車・運動の法則） ⑤身体運動と力学（質量・重量・力の単位） ⑥身体運動と力学（仕事と力学的エネルギー） ⑦姿 勢（重心・立位姿勢） ⑧姿 勢（立位姿勢の制御・機能肢位） ⑨歩 行 ⑩歩 行（歩行の男女差等） ⑪異常歩行と走行 ⑫運動発達（子供の発育・発達） ⑬運動発達（原始反射） ⑭運動学習 ⑮後期期末試験の解説			
学習上の注意	・授業中の私語は厳禁とする。 ・積極的な姿勢で授業に臨むこと。 ・覚えることが多いので必ず復習し次回に臨むこと		
評価方法	後期末試験の点数のみで評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書「運動学」(医歯薬出版株式会社)		

2026J13	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	高齢者及び競技者の生理学	単位数	2
担当教員	高山 靖規	履修年次	2年後期
【授業の概要・到達目標】 柔道整復師は運動器の専門家です。近年では、介護施設の機能訓練指導員として、またスポーツ選手たちのトレーナーとして働く柔道整復師も増えており、活躍の場は広がっています。この授業では、1年次と2年次前期で学んだ「生理学」を踏まえたうえで、「老化」によって低下していく生理学的な機能と、「スポーツ」において関連の高い生理学的な機能についてより専門的に学びます。これによって、高齢者や競技者(子供を含む)についての理解を深め、将来、信頼関係が構築できる土壌を養います。			
【授業計画】 ①発達と老化 ②高齢者の身体的変化 ③高齢者の精神的変化 ④高齢者に好発する疾患・外傷Ⅰ ⑤高齢者に好発する疾患・外傷Ⅱ ⑥運動器不安定症 ⑦栄養と酸素 ⑧赤筋と白筋 ⑨運動と循環 ⑩運動と呼吸 ⑪オーバートレーニング症候群 ⑫女性アスリートの三主徴 ⑬疼痛と鎮痛 ⑭総括 ⑮試験内容の解説			
学習上の注意	複数の教材を元に作成した講義スライドを用いる。そのため、参考書などを買い揃える必要はない。		
評価方法	期末試験の結果により評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書全国柔道整復学校協会監修 「生理学」(南江堂) 参考書中里浩一ら「1から学ぶスポーツ生理学」(ナッブ)、人体の正常構造と機能(日本医事新報社)		

2026J14	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	病理学	単位数	4
担当教員	高柳 和貴	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】 病理学とは疾病の原因、成立過程、及びその結果など疾病の基本概念について学ぶものである。機能障害の機序や機能回復に期待される再生能力について学ぶ病理学は、柔道整復術の基礎となる重要な学問領域である。 ①病理を研究する方法を知り、その観察方法について考えることができ、疾病一般について意義・分類を知る。 ②細胞障害・循環障害・進行性病変・炎症・腫瘍などのマクロ・ミクロ形態変化を知見として捉え、修得する。			
【授業計画】 ①病理学とは ②疾病の分類、症候の分類 ③萎縮・変性 ④代謝障害 ⑤老化、壊死、死 ⑥血液の循環障害 ⑦リンパ液の循環障害 ⑧脱水症、高血圧 ⑨肥大、過形成 ⑩脳死と臓器移植 ⑪炎症の一般 ⑫炎症の原因と形態学的変化 ⑬炎症の分類 ⑭前期の復習と練習問題 ⑮前期期末試験 ⑯ 試験返却・解説 ⑰ 炎症の一般・形態学的な変化、分類 ⑱ 先天異常 ⑲ 奇形 ⑳病因の一般 ㉑栄養障害 ㉒物理的外因 ㉓感染症(細菌) ㉔感染症(細菌) ㉕感染症(ウイルス) ㉖感染症(ウイルス)			
学習上の注意	専門用語の多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は用語の意味を理解することが望ましい。 教科書は、授業ごとに必ず持参してください。 授業中の携帯の操作は謹んで下さい。		
評価方法	期末試験(前期・後期)や小テスト等により総合的に判定する。		
教科書 ・ 参考書	教科書”病理学概論(改訂第3版、 全国柔道整復学校協会監修、医歯薬出版株式会社)” 参考書”人体の正常構造と機能、日本医事新報社、病気がみえる”		

2026J15	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	一般臨床医学	単位数	4
担当教員	高柳 和貴	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 一般臨床医学では、臨床で遭遇することの多い疾患についての病因、特徴を学習し、実臨床、ひいては国家試験において重要な知識を学ぶ科目である。特に視診における特徴を復習し望むと良い。また、将来的に実臨床で柔道整復師の適応でない疾患に遭遇した場合に適切な診療科と連携を取ることで患者にとって最善の提案ができるようになることを目的とする。			
【授業計画】 ①呼吸器疾患 ②呼吸器疾患 ③循環器疾患 ④循環器疾患 ⑤消化器疾患 ⑥消化器疾患 ⑦肝胆膵疾患 ⑧肝胆膵疾患 ⑨代謝疾患 ⑩内分泌疾患 ⑪内分泌疾患 ⑫血液・造血器疾患 ⑬血液・造血器疾患 ⑭復習 ⑮前期期末試験の実施 ⑯前期期末試験の解説 ⑰腎・尿路疾患 ⑱腎・尿路疾患 ⑲腎・尿路疾患 ⑳神経疾患 ㉑神経疾患 ㉒神経疾患 ㉓リウマチ・膠原病 ㉔リウマチ・膠原病 ㉕リウマチ・膠原病 ㉖感染症・その他			
学習上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用、無断退室などを禁止する。		
評価方法	期末試験(前期・後期)や小テスト等で総合的に判定する。		
教科書 ・ 参考書	教科書”「一般臨床医学 第2版」全国柔道整復学校協会 医歯薬出版” 参考書配布資料、Visual note 2nd edition MEDIC MEDIA		

2026J16	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	外科学	単位数	2
担当教員	塚本 輝	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 1.外科学の基本知識の習得を目的に講義形式で授業を行う。 2.医療従事者として必要な全身の外科知識を学び考え方を身につける。 3.柔道整復師として医療現場に出た時に役立つ授業内容である。			
【授業計画】 ①ガイダンス、外科学とは(歴史) 損傷(熱傷) ②顔面外傷 ③頭頸部外傷 ④胸腹部外傷 ⑤出血と止血、ショック ⑥救急蘇生法 ⑦炎症 ⑧腫瘍(1) ⑨腫瘍(2) ⑩輸液、輸血(1) ⑪輸液、輸血(2) ⑫手術,滅菌と消毒 ⑬麻酔 ⑭移植 ⑮試験解説			
学習上の注意	復習に重点を置いて勉強すること。		
評価方法	学校規定の出席数に達していること。 成績評価は学期末テストで評価する。		
教科書 ・ 参考書	「外科学概論(最新版)」 全国柔道整復学校協会編(南江堂)		

2026J17	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	整形外科科学	単位数	4
担当教員	塚本 輝	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 整形外科科学の基礎と疾患を学ぶ。主に運動器の基礎知識、診断学、治療法などを学習する。柔道整復師として臨床現場で活用できるように知識の習得を目標とし学習する。			
【授業計画】 ①整形外科科学総論 ②骨の基礎知識 ③関節の基礎知識 ④その他軟部組織の基礎知識 ⑤整形外科診察法① ⑥整形外科診察法② ⑦整形外科診察法③ ⑧検査法の進め方 ⑨検査法① ⑩検査法② ⑪検査法③ ⑫治療法① ⑬治療法② ⑭治療法③ ⑮試験の解説、治療法④ ⑯治療法⑤ ⑰スポーツ障害① ⑱スポーツ障害② ⑲感染性疾患① ⑳感染性疾患② ㉑骨・軟部腫瘍① ㉒骨・軟部腫瘍② ㉓骨・軟部腫瘍③ ㉔非感染性疾患① ㉕試験の解説、非感染性疾患② ㉖非感染性疾患③			
学習上の注意	復習に重点を置いて勉強すること。		
評価方法	期末試験で評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書整形外科科学改訂第4版 全国柔道整復学校協会編		

2026J18	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	リハビリテーション医学	単位数	4
担当教員	渡邊 学・小林 規彦	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】 柔道整復師として臨床現場で必要とされるリハビリテーション医学の基本的知識と心構えを会得することを目的とする。前期はリハビリテーション医学の考え方の基礎となるリハビリテーション概論を中心に講義を行った後、リハビリテーションを進めていく上で重要な評価学・障害学・治療学についての理解を深めることを目標とする。後期はリハビリテーションを進めていく上で重要な各種のアプローチ法についての理解を深めることを目標とする。具体的には①リハビリテーションの理念を理解する。②従来の医療とリハビリテーション医療との違いを説明できる。③国際生活機能分類に基づいた障害の分類を説明できる。④リハビリテーションチームの構成を理解し各職種の役割を説明できる。⑤リハビリテーション医療の内容と流れを説明できる。⑥社会資源の活用など地域連携について説明できる。⑦			
【授業計画】 ①リハビリテーションの理念 ②リハビリテーションの対象と障害者の実態 ③障害の階層とアプローチ ④リハビリテーション評価学(1) ⑤リハビリテーション評価学(2) ⑥リハビリテーション評価学(3) ⑦リハビリテーション障害学(1) ⑧リハビリテーション障害学(2) ⑨リハビリテーション障害学(3) ⑩リハビリテーション治療学(1) ⑪リハビリテーション治療学(2) ⑫リハビリテーション治療学(3) ⑬リハビリテーション治療学(4) ⑭リハビリテーション医学の関連職種 ⑮総 括 ⑯リハビリテーションの概念国際障害分類(ICIDHとICF) ⑰障害学 運動学と機能解剖学上肢 脊椎 ⑱疾患別 治療学上肢 脊柱 ⑲疾患別 評価と診断上肢 脊柱 ⑳疾患別 理学療法上肢 脊柱 ㉑障害学 運動学と機能解剖学下肢 ㉒疾患別 治療学下肢 ㉓疾患別 評価と診断下肢 ㉔疾患別 理学療法下肢 ㉕疾患別 評価と診断脳卒中(Brunnstrom法, 高次脳機能障害) ㉖疾患別 理学療法脳卒中(リハビリテーション, リスク管理)			
学習上の注意	以下の事項の禁止。 飲食、携帯電話(メールを含む)の使用、授業内容に関係のない私語。		
評価方法	①出席状況 ②提出物 ③前・後期期末試験等により総合的に行う。		
教科書 ・ 参考書	教科書”リハビリテーション医学(改訂第4版)全国柔道整復学校協会(監修):南江堂” 参考書リハビリテーション医学・医療コアテキスト 公益社団法人日本リハビリテーション医学会(監修):医学書院		

2026J19	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	臨床鑑別学	単位数	2
担当教員	塚本 輝	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 柔道整復師に必要な外傷や内科疾患との鑑別を中心に学習する。臨床現場において治療や緊急の対応時に活用できることを目標に学習する。			
【授業計画】 ①救急医学概論、画像診断 ②救急時の評価 ③症候学(心肺停止) ④症候学(意識障害) ⑤症候学(疼痛) ⑥BLS、止血 ⑦外傷と応急処置 ⑧症候学(中枢神経障害) ⑨症候学(呼吸器疾患、循環器疾患) ⑩症候学(代謝性疾患) ⑪症候学(腎疾患) ⑫外傷各論、中毒疾患 ⑬安全管理、リスクマネジメント ⑭復習 ⑮試験の解説			
学習上の注意	復習に重点を置いて勉強すること。		
評価方法	期末試験で評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書医療の中の柔道整復 全国柔道整復学校協会編		

2026J20	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	社会保険学	単位数	1
担当教員	菱沼 良平	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 日本の社会保障制度の全体像を把握し、特に柔道整復師の業務に不可欠な「受領委任払い制度」と「療養費」の仕組みを専門的に学修します。 到達目標は以下の通りです。 1.日本の社会保障制度(社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生)の体系と現状を説明できる。 2.医療保険制度の種類(被用者保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度)と仕組みを区別して説明できる。 3.柔道整復師における療養費の支給基準、算定方法、および請求手続き(受領委任)を正しく理解し、実践的な説明ができる			
【授業計画】 ①社会保障の基礎①(社会保障の目的と機能) ②社会保障の基礎②(日本の社会保障の歴史と体系) ③社会保障制度各論①(年金保険・雇用保険・労災保険) ④社会保障制度各論②(社会福祉・公的扶助・介護保険) ⑤医療保険制度①(医療保険の基本構造、保険者と被保険者) ⑥医療保険制度②(被用者保険と国民健康保険) ⑦医療保険制度③(高齢者医療制度、公費負担医療) ⑧療養費の基礎①(現物給付と現金給付、療養費の性格) ⑨療養費の基礎②(受領委任払い制度の仕組み) ⑩療養費の支給基準(協定・契約、施術録の記載) ⑪柔道整復療養費の算定①(初検料、施術料、加算等) ⑫柔道整復療養費の算定②(具体的な算定ルールと事例) ⑬療養費請求実務①(申請書の作成、一部負担金) ⑭療養費請求実務②(審査支払機関、返戻・指導監査) ⑮後期期末試験の解説・フィードバック			
学習上の注意	将来、開業や勤務をする上で必須となる知識です。制度の仕組みは複雑ですが、単なる暗記ではなく「誰が、誰に、何を、どのように請求するのか」という流れを意識して学習してください。		
評価方法	期末試験100% 小テストの実施状況や授業態度を成績評価に加味することがあります。		
教科書 ・ 参考書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理(医歯薬出版株式会社)		

2026J21	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	公衆衛生学・衛生学	単位数	4
担当教員	木村 直人	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 公衆衛生学の目的は、人々の疾病を予防し、健康の保持・増進をはかり延命をもたらすことである。したがって、人々の健康を守り高める努力は、社会の中の個人と社会の組織的活動によるものが一体となって進められる。そこで公衆衛生学では、個人と社会組織を併せた健康づくりの基礎的知識について理解を深める。主な内容として、①生活環境衛生、②学校保健、③労働衛生、などである。 また衛生学では疾病や健康障害の発生要因がいかなる状況下において起こり得るか、さらにはそれらの予防に関する基礎的知識について理解を深める。主な内容として、①健康の概念、WHOについて、②感染症の予防(消毒も含む)、③疾病予防と健康管理、などである。			
【授業計画】 ①衛生学の歴史(①) ②衛生学の歴史(②) ③世界保健機関(WHO) ④健康の概念 (1) ⑤健康の概念 (2) ⑥衛生統計(1)(死亡率について) ⑦衛生統計(2)(出生について) ⑧衛生統計(3)(疾病について) ⑨衛生統計(4)(人口動態について) ⑩感染症の予防(種類) ⑪感染症の予防(感染源) ⑫感染症の予防(治療と予防) ⑬感染症の予防(免疫) ⑭感染症の予防(殺菌・消毒) ⑮前期期末試験答え合わせ、解説 ⑯環境衛生(空気1) ⑰環境衛生(空気2) ⑱環境衛生(水質1) ⑲環境衛生(水質2) ⑳環境衛生(水質3) ㉑学校保健(1) ㉒学校保健(2) ㉓母子保健(1) ㉔精神保健(1) ㉕後期期末試験答え合わせ、解説 ㉖精神保健(2)			
学習上の注意	教科書以外にも、最新の資料を配る場合もある。特に人口動態や衛生統計に関しては年次の変化の推移を注意すること。		
評価方法	必要とされる出席日数を満たしていること。成績の評価は試験を行って評価する。必要に応じて追試験も行う。最終的な可否は卒業試験の成績を参考にされたい。		
教科書 ・ 参考書	教科書「衛生学・公衆衛生学」社団法人全国柔道整復学校協会 参考書「国民衛生の動向 2019」財団法人厚生統計協会		

2026J22	専門基礎分野	形式	実技
授業科目名	柔道1	単位数	2
担当教員	小枝 幸・立花 要	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】			
1. 柔道の礼法を学び、実践する。 2. 柔道を実践することによって身体運動や機能について理解を深める。 3. 柔道の実践を通して身体を鍛え、体力を向上させる。 4. 柔道の受け身や安全な技を身につける。 5. 柔道整復師と柔道との関係について理解する。			
【授業計画】			
①柔道の歴史、嘉納治五郎について ②柔道の基本理念 ③柔道衣の着用、装飾品、身嗜み ④礼法 ⑤柔道の基本動作 ⑥後方受身と横受身 ⑦技を受けた際の受身 ⑧臨時試験(身嗜み・礼法・受身)、フィードバック ⑨前方回転受身 ⑩体さばきと投技(1) ⑪体さばきと投技(2) ⑫体さばきと投技(3) ⑬体さばきと投技(4) ⑭体さばきと投技(5) ⑮投技の反復と約束稽古 ⑯抑込技 ⑰投技と抑技 ⑱試合における礼法 ⑲抑技3 ⑳関節技 ㉑絞技 ㉒活法について ㉓約束稽古から乱取稽古(1) ㉔約束稽古から乱取稽古(2) ㉕約束稽古から乱取稽古(3) ㉖約束稽古から乱取稽古(4)			
学習上の注意	1. 怪我には十分注意すること。 2. 柔道衣を常に清潔に保ち、服装、手足の爪や頭髮などに配慮すること。 3. 礼節を重んじること。		
評価方法	前期は臨時試験50%・実技試験50%、後期は実技試験100%で評価を行う。 見学は授業内容のレポートを作成・提出すること。不適切な身嗜み・レポートの未提出は総合成績の減点対象とする。		
教科書 ・ 参考書	参考書”柔道(社)全国柔道整復学校協会編(南江堂)”		

2026J23	専門基礎分野	形式	実技
授業科目名	柔道2	単位数	2
担当教員	小枝 幸・立花 要	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】			
1年次に習得した柔道の基本動作等をより確実なものとすることを目標とする。また、柔道における立技、固技を乱取り練習の中で正しく行えるようにし、並行して投の形の修得を目指す。			
【授業計画】			
①授業概要、1年次の動作確認 ②受身(後方受身、回転受身) ③崩し、体捌き ④立技1(手技) ⑤立技2(腰技) ⑥立技3(足技) ⑦立技4(大内刈、小内刈) ⑧立技5(連続技) ⑨立技6(崩しを用いての連続技) ⑩固技1 ⑪固技2 ⑫固技3 ⑬総合練習4 ⑭総合練習2 ⑮総合練習3 ⑯投の形4(基本の動作、礼法) ⑰投の形2(浮落) ⑱投の形3(背負投) ⑲投の形4(肩車) ⑳投の形5(浮腰) ㉑投の形6(払腰) ㉒投の形7(釣込腰) ㉓投の形8(送足払) ㉔投の形9(支釣込足) ㉕投の形10(内股) ㉖投の形11(確認練習)			
学習上の注意	1. 怪我には十分注意すること。 2. 柔道衣を常に清潔に保ち、服装、手足の爪や頭髮などに配慮すること。 3. 礼節を重んじること。		
評価方法	実技試験100%で評価を行う。 見学は授業内容のレポートを作成・提出すること。 不適切な身嗜み・レポート未提出は総合成績の減点対象とする。		
教科書 ・ 参考書	参考書”柔道(社)全国柔道整復学校協会編(南江堂)”		

2026J24	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	関係法規	単位数	2
担当教員	菱沼 良平	履修年次	3年前期
【授業の概要・到達目標】			
日本の法体系および医療関連法規を概観し、柔道整復師法を中心とした資格法の理解を深めます。また、医療法、個人情報保護法、社会保障関連法規を通じて、医療従事者としての法的責任と倫理観を醸成します。			
到達目標は以下の通りです。			
1.日本の法体系を理解し、柔道整復師法の位置づけと内容(免許、業務範囲、施術所規定など)を説明できる。			
2.医師法や他の医療関連職種法との違いを理解し、柔道整復師の業務独占・名称独占の範囲を説明できる			
【授業計画】			
①法の意義、柔道整復師の義務と患者の権利			
②柔道整復師法①(総則、免許の欠格事由・登録)			
③柔道整復師法②(免許の取消し、名簿訂正)			
④柔道整復師法③(国家試験、業務範囲、禁止行為)			
⑤柔道整復師法④(施術所の開設・届出、構造設備基準、雑則)			
⑥柔道整復師法⑤(罰則規定、指定登録試験機関)			
⑦柔道整復師法の事例検討(広告制限、業務範囲の解釈)			
⑧関連法規①(医師法、歯科医師法、保助看法)			
⑨関連法規②(診療放射線技師法、その他の医療資格法)			
⑩医療法①(目的、医療施設の定義)			
⑪医療法②(医療安全、医療計画)			
⑫個人情報保護法、社会福祉関係法規			
⑬社会保険関係法規(健康保険法等の概要)			
⑭国民医療費、療養費の仕組み			
⑮重要事項の総括、および前期期末試験の解説・フィードバック			
学習上の注意	法律用語は難解な場合がありますが、単なる暗記ではなく「現場でどのような法的判断が求められるか」をイメージして学習してください。授業の復習を必ず行い、次回の授業に備えてください。		
評価方法	期末試験100% 小テストの実施状況や授業への取り組み姿勢(主体性・倫理観)を成績評価に加味することがあります。		
教科書 ・ 参考書	教科書関係法規2026年度版 医歯薬出版		

2026J25	専門基礎分野	形式	講義
授業科目名	医療概論	単位数	1
担当教員	菱沼 良平	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 医療従事者として求められる高い倫理観と社会的責任について深く考察します。法的な義務だけでなく、生命倫理、職業倫理、そして患者とのコミュニケーションにおける倫理的側面を学びます。 到達目標は以下の通りです。 1.医療倫理の基本原則（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言等）と現代的課題を説明できる。 2.インフォームド・コンセント（説明と同意）の重要性を理解し、患者の自己決定権を尊重する態度を養う。 3.守秘義務、個人情報保護、および医療安全における柔道整復師の責任を説明できる。 * 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①医療従事者の職業倫理（プロフェッショナリズムとは） ②倫理観の変遷（パターナリズムから患者中心の医療へ） ③現代医療の倫理的課題（SOLとQOL、生命倫理） ④患者への説明と同意①（インフォームド・コンセントの法理） ⑤患者への説明と同意②（ケーススタディ：説明の実践） ⑥患者への説明と同意③（ケーススタディ：困難事例への対応） ⑦医療従事者の守秘義務①（刑法、法的根拠） ⑧医療従事者の守秘義務②（守秘義務の解除要件、SNSの注意点） ⑨医学史と倫理（ヒポクラテスの誓い、医の倫理綱領） ⑩柔道整復師の社会的責任①（地域医療における役割） ⑪柔道整復師の社会的責任②（他職種連携、災害時医療） ⑫柔道整復師の社会的責任③（コンプライアンスと広告規制） ⑬医療における情報管理と責任①（カルテの開示、記録の保存） ⑭医療における情報管理と責任②（医療事故と安全管理） ⑮後期期末試験の解説・フィードバック			
学習上の注意	正解が一つではない倫理的問題について、自ら考え、議論する姿勢を求めます。ディベートやケーススタディでは積極的に発言し、他者の意見を尊重しながら多角的な視点を養ってください。		
評価方法	期末試験90%、ディベート・演習への参加度10% 小テスト、授業態度により成績評価に加味することがある。		
教科書 ・ 参考書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版株式会社）		

2026J26	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復総論1	単位数	4
担当教員	熊谷 将史	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】 整復総論1では骨折総論について講義する。2年次以降の骨折各論に応用できる基礎知識の習得を目的とする。 骨の構造と機能について理解を深めたうえで骨折の分類・症状・合併症・小児と高齢者の骨折の違い・治癒過程・疲労 骨折の基礎・定型的骨折・整復法・固定法について講義を進める。 具体的には骨折の分類や症状、年齢別の特徴的な骨折の違い、治癒過程などを理解し、説明できるようにする。 1年間の講義終了時点で骨折とは何かということの理解を目標とする ＊ 柔道整復師として接骨院で			
【授業計画】 ①骨の構造と機能①・骨の名称① ②骨の構造と機能②・骨の名称② ③骨の構造と機能③・骨の名称③ ④骨折の定義、骨折の分類① ⑤骨折の分類② ⑥骨折の分類③ ⑦骨折の一般外傷症状 ⑧ 臨時試験、解答解説（骨の構造と機能、骨折の定義・分類・骨折の一般外傷症状） ⑨骨折の固有症状 ⑩骨折の全身症状 ⑪骨折の合併症 ⑫骨折の合併症 ⑬骨折の合併症 ⑭骨折の合併症 ⑮前期試験解説・骨折総論まとめ ⑯小児の骨折① ⑰小児の骨折② ⑱高齢者の骨折① ⑲高齢者の骨折② ⑳骨折の治癒過程① ㉑骨折の治癒過程② ㉒骨折の予後・骨折の治癒に影響を与える因子 ㉓疲労骨折① ㉔疲労骨折② ㉕定型的骨折 ㉖骨折の整復①			
学習上の注意	配布資料や板書以外に口頭で説明することも試験に出題する場合もあるのでメモをとること。 授業中の飲食、私語、PC・タブレット・スマートフォン(指示のある時は可)の使用、無断退出は厳禁とする。		
評価方法	前期・後期評価は期末試験100%で評価を行う。 提出物・小テストを成績に加味する。		
教科書 ・ 参考書	教科書”『柔道整復学・理論編 第7版』(社)全国柔道整復学校協会編（南江堂）” 参考書”「柔道整復外傷学ハンドブック(総論)第2版」(南江堂)”		

2026J27	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復総論2	単位数	4
担当教員	吉田 裕輝・菱沼 良平	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】 本授業では、柔道整復術の対象となる関節の損傷(捻挫・脱臼)、筋・腱・末梢神経・血管・皮膚の損傷に関する総論的知識を体系的に学修します。前期に学習した基礎医学(解剖学・生理学・運動学)を統合し、各損傷の発生機序から治癒過程に至る病態生理を理解することを目的とします。 到達目標は以下の通りです。 1.脱臼と捻挫、一般外傷症状と固有症状の違いを明確に区別し、説明できる。 2.脱臼の合併症および徒手整復の力学的原理を、解剖学的根拠に基づいて説明できる。 3.筋、腱、末梢神経等の軟部組織損傷について、その分類、症状、治癒機序(炎症期・修復期等)を説明できる。			
【授業計画】 ①授業概要説明、人体に加わる力 ②損傷時に加わる力 ③関節の構造と機能① ④関節の構造と機能② ⑤関節の脱臼① ⑥関節の脱臼② ⑦関節の脱臼③ ⑧関節の脱臼④ ⑨関節の脱臼⑤ ⑩小テスト,解答解説 ⑪脱臼の症状1 ⑫脱臼の症状2 ⑬脱臼の整復障害 ⑭脱臼の予後と経過 ⑮前期期末試験解説 ⑯痛みの基礎①(発生機序、伝導路) ⑰痛みの基礎②(痛みの分類、評価法) ⑱関節の捻挫(復習と応用) ⑲関節の捻挫(病態別考察) ⑳靱帯の損傷①(構造、損傷分類) ㉑靱帯の損傷②(治癒過程) ㉒筋・腱の構造と機能 ㉓筋の損傷①(挫傷、肉離れの病態) ㉔筋の損傷②(合併症、治療法) ㉕腱の損傷①(断裂、炎症) ㉖腱の損傷②(治癒機序)			
学習上の注意	学習項目の解剖学や運動学の内容の復習を行い、授業に臨むこと。 授業の復習は必ず行い、次授業に臨むこと。 他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	前期:小テスト20%、前期末試験80%で評価する。 後期:期末試験100% 小テスト、授業態度により成績評価に加味することがある。 総合成績は前期50%、後期50%で算出する。		
教科書 ・ 参考書	教科書『柔道整復学理論編』改訂第7版(南江堂)		

2026J28	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復運動学	単位数	4
担当教員	又吉 啓太	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】 柔道整復師の運動器の構造と機能”に関する理解をもとに、運動学の概念、力学の身体運動への応用、運動生理、身体の発育・発達、運動学習など、人の運動行動を幅広く学習する。 * 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①上肢帯の運動① 骨・関節・鎖骨・肩甲骨の運動 ②上肢帯の運動② 骨・関節・鎖骨・肩甲骨の運動 ③上肢帯の運動① 上肢帯の筋 ④上肢帯の運動② 上肢帯の筋 ⑤上肢帯の運動② 上肢帯の筋 ⑥肩関節の運動① 骨・関節・運動 ⑦肩関節の運動② 肩関節の筋 ⑧肩関節の運動③ 肩関節の筋 ⑨肘関節と前腕の運動① 骨・関節・運動 ⑩肘関節と前腕の運動② 肘関節の筋 ⑪手関節と指の運動①骨・関節・運動 ⑫手関節と指の運動② 手関節・指の筋① ⑬手関節と指の運動③ 手関節・指の筋② ⑭手関節と指の運動④ 手関節・指の筋③ ⑮股関節の運動① 骨・関節・運動 ⑯股関節の運動② 股関節の筋 ⑰膝関節の運動①骨・関節・運動① ⑱膝関節の運動②骨・関節・運動② ⑲膝関節の運動③膝関節の筋① ⑳足関節と足部の運動①骨・関節・運動 ㉑足関節と足部の運動②足の筋① ㉒足関節と足部の運動③足の筋② ㉓体幹と脊柱の運動①骨・関節・運動① ㉔体幹と脊柱の運動②骨・関節・運動② ㉕頸椎・胸椎の運動①骨・関節・運動 ㉖頸椎・胸椎の運動②頸部・胸郭の筋			
学習上の注意	・授業中の私語は厳禁とする。 ・積極的な姿勢で授業に臨むこと。 ・覚えることが多いので必ず復習し次回に臨むこと		
評価方法	前期後期ともに期末試験の点数のみで評価する。総合評価は、前期末試験と後期末試験の平均値とする。		
教科書 ・ 参考書	教科書”運動学・解剖学(医歯薬出版)Qシリーズ新解剖学(日本医事新報社)”		

2026J29	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復外科学	単位数	2
担当教員	蓮沼 鉄也	履修年次	3年後期
【授業の概要・到達目標】 後期末試験までは、1年時に習った外科学概論の復習を行う。国家試験出題項目を中心に、解剖学や生理学の知識を再確認しながら行うことにより、暗記ではなく、理解が深まるようにすることを目指す。後期末試験後は国家試験対策を中心に講義を展開したいと考えている。			
【授業計画】 ①中枢神経系の解剖生理 ②頭部外傷 ③頭蓋内出血 ④脳血管障害 ⑤視床下部と下垂体(解剖生理) ⑥脳腫瘍 ⑦下垂体ホルモン、甲状腺ホルモンについて ⑧甲状腺疾患(バセドウ氏病) ⑨甲状腺疾患(甲状腺癌) ⑩胸壁・肺疾患(肺癌、気胸等) ⑪心疾患① ⑫心疾患② ⑬動脈疾患 ⑭高安病、乳腺疾患 ⑮乳癌・確認テスト			
学習上の注意	基本的に解剖学的知識は既に習得しているものとして講義を展開するので、理解できていない学生は、必ず予め予習して臨むこと。授業中の飲食(当然ガムも)、私語、携帯電話(メールを含む)の使用は厳禁とする。 積極的な姿勢で授業に臨むこと。無気力な学生に対しては退室を指示することもある。		
評価方法	定期試験の結果で評価する。規定の出席日数をクリアしていない学生に対しては受験資格を与えない。 尚、試験問題は、①板書、②口頭での説明、③配布プリント、の内容の中から出題する。		
教科書 ・ 参考書	教科書「外科学概論」全国柔道整復学校協会編(南江堂)		

2026J30	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復基礎医学	単位数	4
担当教員	園部 英貴	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】 本授業では、医学的診断学の基本となる問診、視診、打診、聴診、触診による理学的所見の把握方法と、生命徴候(バイタルサイン)について説明する。これらから得られる情報を基に、患者の臨床症候を系統的かつ論理的に理解し、緊急度・重症度の判断並びに身体的異常を適切に評価する能力の基礎を養うことを目的とする。授業内容が、将来、柔道整復師として臨床現場において適切な判断と対応を行うための基盤となることを目指す。担当教員は、接骨院における外傷治療の実務経験を有する。			
【授業計画】 ① イントロダクション/診察概論 ② 診察各論 ③ 医療面接 B.視診 (1) ④ 視診(2) ⑤ 視診(3) ⑥ 視診(4) ⑦ 視診(5) ⑧ 視診(6) ⑨ 視診(7) ⑩ 視診(8) ⑪ 視診(9) ⑫ 視診(10) ⑬ 視診(11) ⑭ 視診(12) ⑮ 打診 ⑯ 聴診(1) ⑰ 聴診(2) ⑱ 触診(1) ⑲ 触診(2) ⑳ 触診(3) ㉑ 生命徴候(1) ㉒ 生命徴候(2) ㉓ 生命徴候(3) ㉔ 生命徴候(4) ㉕ 生命徴候(5) ㉖ 代表的な臨床症状(1)			
学習上の注意	教科書は必ず使用する為毎回持参すること。		
評価方法	前期末試験、後期末試験を主体とする。期末試験100%で評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書「一般臨床医学」全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版を使用する。必要に応じて各分野でレジュメを配付する。		

2026J31	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復整形外科	単位数	2
担当教員	蓮沼 鉄也	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 「整形外科学」(全国柔道整復学校協会)の内容から、他の教科で扱っていない下記の項目をピックアップして講義を行う。柔道整復師の業務範囲外の疾患も含まれるが、その症状から整骨院を受診する可能性があるため、しっかりと鑑別することが出来るように、知っておくべき知識を簡潔に教授することを目標として、進行する。その上で、実体験も交えて話をする事で、医接連携の大切さを再認識してもらいたい。			
【授業計画】 ①骨端症① ②骨端症② ③四肢循環障害① ④四肢循環障害②上肢の絞扼性神経障害 総論 ⑤上肢の絞扼性神経障害 各論① ⑥上肢の絞扼性神経障害 各論② ⑦下肢の絞扼性神経障害 ⑧下腿コンパートメント症候群 ⑨脳性麻痺、ポリオ、脊髄空洞症、脊髄瘍 ⑩ALS、神経性進行性筋萎縮症、平山病、進行性筋ジストロフィー ⑪変形性頸椎症、斜頸(環軸関節回旋位固定) ⑫黄色靱帯骨化症、シュモール結節、強直性脊椎炎 ⑬胸郭形態異常、ティーチェ病 ⑭腰椎椎間板ヘルニア ⑮前期の総括			
学習上の注意	基本的に解剖学的知識は既に習得しているものとして講義を展開するので、理解できていない学生は、必ず予め予習して臨むこと。授業中の飲食(当然ガムも)、私語、携帯電話(メールを含む)の使用は厳禁とする。 積極的な姿勢で授業に臨むこと。無気力な学生に対しては退室を指示することもある。		
評価方法	定期試験の結果で評価する。 規定の出席日数をクリアしていない学生に対しては受験資格を与えない。 尚、試験問題は、①板書、②口頭での説明、③配布プリント、の内容の中から出題する。		
教科書 ・ 参考書	教科書「整形外科学」「柔道整復学 理論編」 「柔道整復学 実技編」全国柔道整復学校協会編(南江堂) ”		

2026J32	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復病理学	単位数	2
担当教員	高柳 和貴	履修年次	3年前期
【授業の概要・到達目標】 病理学とは生体に発症した疾病がどのような原因(病因)でおこり、どのような変化(病変)をもたらし、どの様に推移(経過)し、最終的にはどうなるか(転機・予後)といった疾病の本態を組織学的に解明する医学の1分科である。病理学の知識を習得することで、臨床の現場において病態をより正確にとらえ、病態の鑑別や適、不適応の判断によって、患者に対して高度な対処・治療が提供できるようになることを目的とする。			
【授業計画】 ①生体防御と免疫 ②液性免疫、細胞性免疫、サイトカイン ③免疫不全 ④自己免疫疾患とその要点 ⑤自己免疫疾患とその要点 ⑥アレルギーの分類 ⑦アレルギー性疾患 ⑧腫瘍の定義、腫瘍の細胞生物学 ⑨腫瘍の発育段階発癌のメカニズム ⑩腫瘍の分類 ⑪主要な癌と肉腫 ⑫免疫から腫瘍までの復習と練習問題を行い、その後に解答と解説を行う。 ⑬循環障害から炎症までの要点を述べ、その後に確認問題を行う。 ⑭病因論から進行性病変迄の練習問題を行い、その後に質疑応答を行う。 ⑮期末試験問題の解答と解説			
学習上の注意	資料と教科書は、授業ごとに必ず持参してください。 授業中の携帯の操作は謹んで下さい。		
評価方法	期末試験の結果や小テスト等で総合的に判定する。		
教科書 ・ 参考書	教科書病理学概論(改訂第3版、全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版株式会社)		

2026J33	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復リハビリテーション医学	単位数	2
担当教員	小林 規彦	履修年次	3年前期
【授業の概要・到達目標】 柔道整復師としての臨床現場で必要とされるリハビリテーション医学の基本的知識と心構えを会得することを目的とする。リハビリテーション医学の対象となる主要な疾患について理解し、疾患によりもたらされる各種の障害及びそのアプローチ法についての理解を深めることを目標とする。また、試験・演習とその解説を通して障害についての理解度を確認する。具体的には、①各種疾患による障害とそのリハビリテーションの特徴を説明できる。②各種合併症・リスクとその予防・治療法を理解する。③リハビリテーションにおける保健・福祉との連携について理解する、などである。			
【授業計画】 ①脳血管障害・頭部外傷(1) ②脳血管障害・頭部外傷(2) ③脊髄損傷 ④神経筋疾患(1) ⑤神経筋疾患(2) ⑥切断 ⑦小児疾患 ⑧リウマチ性疾患 ⑨循環器疾患 ⑩呼吸器疾患・腎疾患 ⑪内分泌代謝性疾患 ⑫がん(1) ⑬がん(2) ⑭摂食嚥下障害 その他 ⑮総 括			
学習上の注意	以下の事項の禁止。 飲食、携帯電話(メールを含む)の使用、授業内容に関係のない私語。		
評価方法	①出席状況 ②期末試験100%		
教科書 ・ 参考書	教科書リハビリテーション医学・医療コアテキスト 公益社団法人日本リハビリテーション 医学会(監修) : 医学書院 参考書目でみるリハビリテーション医学 東京大学出版会		

2026J34	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復施術学	単位数	2
担当教員	小枝 幸	履修年次	1年前期
【授業の概要・到達目標】 臨床の場で必要となる物理療法や評価法、後療法の基本的な知識を習得することを目標とする。また、体表解剖を理解するため基本の筋、骨格系を学び、触診の技術も身に付けるようにする。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①物理療法の理論 ②体表触診① ③体表触診② ④体表触診③ ⑤電気療法① ⑥電気療法② ⑦寒冷療法① ⑧小テスト・寒冷療法② ⑨温熱療法① ⑩温熱療法② ⑪光線療法① ⑫光線療法② ⑬牽引療法① ⑭牽引療法② ⑮後期末試験解説			
学習上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用は厳禁とする。実技の際は白衣を着用すること。		
評価方法	期末試験によって評価する。出席条件を満たすこと(期末試験の受験要件)。		
教科書 ・ 参考書	教科書”『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会 監修（南江堂）”		

2026J35	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復各論1	単位数	2
担当教員	小枝 宰	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 本授業では、上肢の脱臼について、肩鎖関節や肩関節、肘関節の脱臼を中心に学習する。 肩関節と肘関節の脱臼の発生機序や年齢特性、症状、損傷関節構成体、整復法等について学んでいき、前期に学習した脱臼総論の知識を深めていく。また、脱臼に関与する解剖学的な筋や関節の構造も学習する。 柔道整復師として10年以上の実務経験を生かして学生に臨床知識を身に付けさせる。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①肩関節の解剖 ②胸鎖関節の脱臼① ③胸鎖関節の脱臼② ④肩鎖関節の脱臼① ⑤肩鎖関節の脱臼② ⑥肩鎖関節の脱臼③ ⑦肩関節の脱臼① ⑧肩関節の脱臼② ⑨肩関節の脱臼③ ⑩肩関節の脱臼④ ⑪肘関節の脱臼① ⑫肘関節の脱臼② ⑬肘内障① ⑭肘内障② ⑮後期期末試験の解答、解説			
学習上の注意	学習項目の解剖学や運動学の内容を復習を行い、授業に臨むこと。 授業の復習は必ず行い、次授業に臨むこと。 私語、携帯電話など他学生の学習を妨げる行為は厳禁とする。		
評価方法	期末試験によって評価する。出席条件を満たすこと(期末試験の受験要件)。		
教科書 ・ 参考書	教科書”『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会 監修（南江堂）”		

2026J36	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復各論2	単位数	4
担当教員	又吉 啓太	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】 肋骨、上肢帯?指骨までの骨折を学習する。 臨床上多く遭遇する外傷であり、正確な解剖学的特徴とともに、鑑別、転位、神経損傷など理論的な知識を習得することを目標とする。臨床症例と画像を紹介しながら理解を深め現場で行かせる知識とする。 柔道整復師として10年以上の実務経験を生かして学生に臨床知識を身に付けさせる。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①指骨骨折① ②指骨骨折② ③中手骨骨折① ④中手骨骨折② ⑤手根骨骨折 ⑥前腕骨遠位端部骨折① ⑦前腕骨遠位端部骨折② ⑧前腕骨遠位端部骨折③ ⑨前腕骨骨幹部骨折① ⑩前腕骨骨幹部骨折② ⑪前腕骨骨幹部骨折③ ⑫前腕近位端部骨折① ⑬前腕近位端部骨折② ⑭前腕近位端部骨折③ ⑮前期末試験解説 ⑯上腕骨遠位端部骨折① ⑰上腕骨遠位端部骨折② ⑱上腕骨骨幹部骨折① ⑲上腕骨骨幹部骨折② ⑳上腕骨結節部骨折 ㉑上腕骨近位端骨端線離開 ㉒上腕骨外科頸骨折① ㉓上腕骨外科頸骨折② ㉔上腕骨骨頭・解剖頸骨折 ㉕肩甲骨骨折① ㉖肩甲骨骨折②			
学習上の注意	授業中の私語厳禁とする。積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
評価方法	前期試験のみ、後期試験のみで評価し、前期評価と後期評価の平均値を総合評価とする。		
教科書 ・ 参考書	教科書柔道整復学 理論編／柔道整復学 実技編（南江堂）		

2026J37	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復各論3	単位数	2
担当教員	園部 英貴	履修年次	2年前期
【授業の概要・到達目標】 本授業では、上肢の脱臼に関する基本的知識及び考え方について学ぶ。柔道整復師にとって重要な外傷分野の一つであることから、各部位の機能解剖を踏まえ、脱臼の発生機序、分類、整復法及び治療法について学修する。あわせて、臨床との関連を意識しながら、実践的な理解を深めることを目指す。担当教員は、接骨院における外傷治療の実務経験を有する。			
【授業計画】 ①授業概要の説明、肩周囲の関節について ②胸鎖関節脱臼 ③肩鎖関節脱臼 ④肩関節脱臼① ⑤肩関節脱臼② ⑥前腕両骨脱臼① ⑦前腕両骨脱臼② ⑧臨時試験、肘内障 ⑨手関節部の脱臼① ⑩手関節部の脱臼② ⑪手指の脱臼① ⑫手指の脱臼② ⑬手指の脱臼③ ⑭試験の説明、まとめ ⑮試験の解説			
学習上の注意	教科書を毎回使用するため必ず持参すること。		
評価方法	期末試験100%で評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書”「柔道整復学理論編」「柔道整復学実技編」全国柔道整復学校協会編（南江堂）”		

2026J38	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復各論4	単位数	4
担当教員	菱沼 良平	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】 臨床で遭遇頻度の高い「上肢(肩・上腕・肘・前腕・手)」および「頸部」の軟部組織損傷について、詳細な病態・鑑別・治療法を学修します。到達目標は以下の通りです。 1. 上肢および頸部の各軟部組織損傷について、発生機序を運動学的・解剖学的に説明できる。 2. 各疾患の固有症状、徒手検査法、および鑑別診断のポイントを説明できる。 3. 病態に応じた適切な保存療法の適応と、医師への対診が必要な病態を識別できる。 * 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①肩関節部の筋・腱損傷(腱板損傷等) ②肩関節部のスポーツ損傷(投球障害肩等) ③肩関節部の不安定症(動揺肩等) ④肩関節周辺の末梢神経障害(絞扼性神経障害) ⑤肩関節部のその他疾患(石灰沈着性腱板炎等) ⑥上腕部の神経損傷(橈骨神経麻痺) ⑦上腕部の神経損傷(尺骨神経・正中神経麻痺) ⑧肘関節部の靱帯損傷(側副靱帯損傷) ⑨肘関節部のスポーツ障害(野球肘) ⑩肘関節部の腱付着部炎(テニス肘・ゴルフ肘) ⑪肘関節部のその他疾患(滑液包炎等) ⑫前腕部のコンパートメント症候群(阻血性拘縮) ⑬前腕部の腱交叉症候群(インターセクション症候群) ⑭前腕部の末梢神経障害(円回内筋症候群等) ⑮前期期末試験の解説・フィードバック ⑯手関節部の損傷①(TFCC損傷) ⑰手関節部の腱鞘炎(ド・ケルバン病等) ⑱手関節部の末梢神経障害(手根管症候群、ギヨン管症候群) ⑲手根骨の骨壊死(キーンベック病) ⑳手関節の変形(マ デルング変形等) ㉑手・指部の腱・靱帯損傷(突き指、腱断裂) ㉒手指部の変形性疾患(ヘバーデン結節、ブシャール結節) ㉓頭部・顔面部の外傷(打撲、脳震盪の知識) ㉔顎関節症(病態と分類) ㉕頸部軟部組織損傷①(むちうち損傷、頸椎症、斜頸) ㉖頸部軟部組織損傷②(外傷性腕神経叢麻痺、分娩麻痺)			
学習上の注意	解剖学(骨・筋・神経の走行)の知識が不可欠です。授業前に該当部位の解剖を必ず復習してください。 単なる病名の暗記ではなく、「なぜ痛むのか」「どこが障害されているのか」を論理的に理解することを求めます。		
評価方法	総合評価は前期成績50%、後期成績50%として算出します。 各期とも、期末試験90%、小テスト10% ※授業態度(積極的な質問等)を評価に加味することがあります。		
教科書 ・ 参考書	教科書『柔道整復学理論編』改訂第7版(南江堂)		

2026J39	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復各論5	単位数	4
担当教員	小枝 幸	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】 体幹、下肢、頭部、顔面、顎関節の骨折・脱臼を学習する。臨床上、特に遭遇する可能性が高い顎関節脱臼、足部骨折について特徴的な症状を把握し、処置の方法や固定法、後療法など実践で役立つ知識を習得することを目標とする。 柔道整復師として10年以上の実務経験を生かして学生に臨床知識を身に付けさせる。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①授業の概要説明、下肢・頭部・顔面・体幹の関節について ②下肢解剖の復習 ③骨盤骨骨折① ④骨盤骨骨折② ⑤骨盤骨骨折③ ⑥大腿骨骨折① ⑦大腿骨骨折② ⑧大腿骨骨折③ ⑨股関節脱臼① ⑩股関節脱臼② ⑪膝蓋骨骨折/分裂膝蓋骨 ⑫膝蓋骨脱臼/膝関節脱臼 ⑬下腿骨骨折 ⑭下腿骨疲労骨折 ⑮前期末試験解説 ⑯足関節の脱臼骨折 ⑰足根骨骨折① ⑱足根骨骨折② ⑲中足骨骨折① ⑳中足骨骨折② ㉑足趾の骨折・脱臼 ㉒頭部の骨折① ㉓頭部の骨折② ㉔顔面の骨折① ㉕顔面の骨折② ㉖顎関節脱臼			
学習上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用は厳禁とする。		
評価方法	期末試験によって評価する。出席条件を満たすこと(期末試験の受験要件)。		
教科書 ・ 参考書	教科書”『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会 監修 (南江堂)”		

2026J40	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復各論6	単位数	2
担当教員	中野 花菜	履修年次	2年後期
【授業の概要・到達目標】 下肢(股関節から膝関節まで)の軟部組織損傷を講義する。臨床上多く遭遇する外傷であり、正確な解剖学的特徴とともに、理論的な知識を習得することを目指す。臨床症例と画像を紹介しながら理解を深め現場で行かせる知識とする。 ＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①授業概要、下肢機能解剖 ②単径部痛症候群 ③股関節関節唇損傷、ばね股 ④梨状筋症候群 ⑤大腿部打撲、大腿部肉離れ ⑥膝関節機能解剖 ⑦半月板損傷 ⑧十字靱帯損傷 ⑨膝側副靱帯損傷 ⑩タナ障害、変形性膝関節症 ⑪腸脛靱帯炎、鵠足炎、膝蓋靱帯炎 ⑫膝関節テスト法まとめ ⑬膝関節テスト法まとめ② ⑭分離症、すべり症、急性腰痛 ⑮後期試験解説			
学習上の注意	板書以外に口頭で説明することも試験に出題する場合もあるのでメモをとること。 授業中の飲食、私語、スマートフォンの使用、無断退出は厳禁とする。 授業態度の悪い学生は退出してもらう。		
評価方法	後期試験の結果のみで評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書”『柔道整復学理論編』『柔道整復学実技編』『整形外科』 (社) 全国柔道整復学校協会編”		

2026J41	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復各論7	単位数	4
担当教員	蓮沼 鉄也・又吉 啓太	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】			
下腿～足部・足趾の軟部組織損傷の講義を担当する。臨床で遭遇する機会も多い疾患がほとんどであり、触診のコツ、他疾患との鑑別のポイント、具体的な治療方法、保存療法の限界など、実際の臨床の現場で、将来直面するであろう疑問に対処できるような知識・技術を習得することを、この講義のねらいとしたい。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】			
①下肢のアライメントについて ②アキレス腱断裂 ③下腿三頭筋の肉ばなれ ④アキレス腱腱炎・周囲炎アキレス腱部滑液包炎 ⑤シンスプリント ⑥足関節捻挫 ⑦足関節捻挫の後遺症（衝突性外骨腫、足根洞症候群） ⑧その他の足関節・足部の捻挫 ⑨外傷性腓骨筋腱脱臼 ⑩足部の過剰骨障害（有痛性外脛骨、三角骨障害） ⑪足部の変形（扁平足、外反母趾など） ⑫足部の絞扼性神経障害（足根管症候群、前足根管症候群、Morton病など） ⑬足部の骨端症（ケーラー病、フライベルグ病、セーバー病、イゼリン病） ⑭足底腱膜炎、疼痛性踵パッド ⑮母趾種子骨障害 ⑯膝関節・下腿部の外傷 診察・検査・画像診断 ⑰膝関節・下腿部の外傷 診察・検査・画像診断② ⑱膝関節・下腿部の外傷 症状・予後・鑑別診断 ⑲膝関節・下腿部の外傷 症状・予後・鑑別診断② ⑳膝関節・下腿部の外傷 治療・理学療法・固定法 ㉑足関節・足部・足趾の外傷 診察・検査・病態 ㉒足関節・足部・足趾の外傷 症状・予後・治療法 ㉓足関節・足部・足趾の外傷 理学療法・固定法 ㉔股関節部の軟部組織損傷 復習 ㉕大腿部の軟部組織損傷 まとめ・復習 ㉖膝関節の軟部組織損傷 まとめ・復習			
学習上の注意	基本的に解剖学的知識は既に習得しているものとして講義を展開するので、理解できていない学生は、必ず予め予習して臨むこと。授業中の飲食（当然ガムも）、私語、携帯電話（メールを含む）の使用は厳禁とする。 積極的な姿勢で授業に臨むこと。無気力な学生に対しては退室を指示することもある。		
評価方法	前期：前期試験の結果で評価する。後期：後期試験の点数のみで評価する。総合：前期後期の平均値とする。		
教科書 ・ 参考書	教科書「柔道整復学 理論編」「柔道整復学 実技編」 全国柔道整復学校協会編（南江堂） ”		

2026J42	専門分野	形式	講義
授業科目名	整復各論8	単位数	2
担当教員	菱沼 良平	履修年次	3年後期
【授業の概要・到達目標】 現代医療において不可欠な画像診断(X線、CT、MRI、超音波)の基礎知識と、柔道整復師の臨床業務に直結する骨・関節領域の画像読影の基本を体系的に学修します。基本的な撮像原理と画像解剖学を紐付け、実際の症例画像をもとに読影の手順を学びます。単に画像を見るだけでなく、正確な臨床情報(問診・理学所見)と解剖学・生理学の知識を統合して病態を評価する能力を養うことを目的とします。 到達目標は以下の通りです。 1.X線、CT、MRI、超音波検査の基本的な原理と、それぞれの画像の特性・適応を説明できる。 2.脊椎および上肢・下肢関節における正常な画像解剖を識別し、解剖学用語を用いて説明できる			
【授業計画】 ①放射線概論・画像診断機器の基礎(X線、CT、MRIの原理と適応) ②骨関節画像読影の基本(読影の順序、正常解剖と基本病変の捉え方) ③体幹部の画像診断(頸椎・胸腰椎・仙骨・肋骨・仙腸関節とその疾患) ④肩甲帯の画像診断(肩関節・肩鎖関節・胸鎖関節とその疾患) ⑤上肢の画像診断(肘関節・手関節・手指とその疾患) ⑥骨盤帯・股関節の画像診断(股関節・恥骨結合とその疾患) ⑦膝関節の画像診断(膝関節とその疾患) ⑧下腿・足関節・足部の画像診断(足関節・足部とその疾患) ⑨頭部・顔面部の画像診断(頭蓋・顎関節とその疾患) ⑩撮像論の総括フィードバック ⑪骨・軟部腫瘍の画像診断(良性腫瘍・悪性腫瘍の鑑別ポイント) ⑫全身性疾患・骨関節の感染症の画像診断(神経病性関節症等を含む) ⑬運動器超音波(エコー)観察の基礎①(原理、装置の取り扱い、基本走査) ⑭運動器超音波(エコー)観察の基礎②(主要な関節の正常像と異常像) ⑮運動器超音波(エコー)観察の基礎③、および総括フィードバック			
学習上の注意	画像診断の読影には、臨床解剖学および整形外科の正確な知識が不可欠です。毎回の授業前に、該当部位の解剖学的構造を十分に復習してから臨んでください。授業では配布資料に加えて、口頭や板書で重要な臨床的知見を補足するため、積極的にメモを取るよう心掛けてください。また、医療従事者を目指す者として、授業中の私語、無断退席を禁じます。		
評価方法	期末試験100%で評価を行う。		
教科書 ・ 参考書	教科書『解剖学 第2版』『整形外科学 第4版』(社)全国柔道整復学校協会編 (南江堂) 参考書『医療の中の柔道整復』(社)全国柔道整復学校協会編 (南江堂)		

2026J43	専門分野	形式	講義
授業科目名	総合演習理論	単位数	4
担当教員	吉田 裕輝・小枝 幸・熊谷 将史・又吉 啓太・園 望・荻 英貴・葉辺 白平	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】			
柔道整復師は従来から骨折、脱臼、捻挫及び挫傷を生業としているが、近年、超高齢社会への突入に伴い、介護分野における活躍も期待されている。また、医接連繋や地域包括医療の在り方の変革などの社会的変化に伴い、以前にもまして柔道整復師には多岐にわたる知識が求められている。そこで、本科目では柔道整復師にとって必要とされる知識全般を網羅的に学習していく。1,2年次に学習した内容の復習を行いつつ、前期では特に柔道整復師になるために必要な基礎的内容を学習し、後期では基礎を基にその応用力を深めるための演習を行うことで、柔道整復師になるために必要な知識の修得を目標とする。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】			
①授業概要説明、評価方法 ②柔道整復師に必要な解剖学演習(総論) ③柔道整復師に必要な解剖学演習(骨格系) ④柔道整復師に必要な解剖学演習(筋系) ⑤柔道整復師に必要な生理学演習(総論、体温、血液) ⑥柔道整復師に必要な解剖・生理学演習(消化器) ⑦柔道整復師に必要な解剖・生理学演習(呼吸器) ⑧柔道整復師に必要な解剖・生理学演習(泌尿器) ⑨柔道整復師に必要な解剖・生理学演習(生殖器) ⑩柔道整復師に必要な解剖・生理学演習(脈管、循環) ⑪柔道整復師に必要な生理学演習(栄養と代謝、体温) ⑫柔道整復師に必要な解剖・生理学演習(内分泌) ⑬柔道整復師に必要な生理学演習(骨、筋) ⑭柔道整復師に必要な解剖・生理学演習(神経系1) ⑮柔道整復師に必要な解剖・生理学演習(神経系2) ⑯柔道整復師に必要な運動学1 ⑰柔道整復師に必要な運動学2 ⑱柔道整復師に必要な運動学3 ⑲柔道整復師に必要な病理学1 ⑳柔道整復師に必要な病理学2 ㉑柔道整復師に必要なリハビリテーション医学1 ㉒柔道整復師に必要なリハビリテーション医学2 ㉓柔道整復師に必要な衛生学・公衆衛生学1 ㉔柔道整復師に必要な衛生学・公衆衛生学2 ㉕柔道整復師に必要な一般臨床医学1 ㉖柔道整復師に必要な一般臨床医学2			
学習上の注意	演習理論であるため、特に前期は多くの問題演習を実施する。そのため、予習は課しませんが、少なくとも授業時間と同程度以上の復習を毎回行うことは必須であると心がけてください。		
評価方法	前期・後期期末試験により評価する。総合評価は前期50%、後期50%とする。詳細は初回授業で説明する。		
教科書・参考書	教科書全国柔道整復学校協会監修・「解剖学」・「運動学」・「病理学概論」・「関係法規」・「一般臨床医学」(医歯薬出版)・「生理学」・「衛生学公衆衛生学」・「リハビリテーション医学」・「外科学概論」・「整形外科学」・「柔道整復学理論編」・「柔道整復学実技編」(南江堂)・「国家試験過去問題集徹底攻略柔道整復師用」(医道の日本社)		

2026J44	専門分野	形式	講義
授業科目名	後療法理論	単位数	2
担当教員	小枝 宰	履修年次	3年後期
【授業の概要・到達目標】 臨床の場で活かせる物理療法や手技療法の方法、使い方を学ぶ。外傷後の早期復帰を目指した運動療法、物理療法を理解する。症状や経過を見極め、最適な後療法を選択できるようにする。 ＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①物理療法の理論・冷却療法① ②物理療法の理論・冷却療法② ③物理療法の理論・温熱療法① ④物理療法の理論・温熱療法② ⑤物理療法の理論・電気療法① ⑥物理療法の理論・電気療法② ⑦物理療法の理論・超音波療法 ⑧物理療法の理論・水治療法 ⑨物理療法の理論・牽引療法 ⑩手技療法① ⑪手技療法② ⑫関節運動学的アプローチ ⑬ストレッチ・上肢 ⑭ストレッチ・下肢 ⑮ストレッチ・体幹、確認テスト			
学習上の注意	実技の際には動きやすい服装、または白衣を着用すること。		
評価方法	後期末試験結果と授業態度・出席状況(期末試験の受験要件)を総合的に評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書”『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会 監修（南江堂）”		

2026J45	専門分野	形式	実技
授業科目名	整復実技1	単位数	2
担当教員	熊谷 将史・又吉 啓太	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】 柔整固定法実技では骨折、脱臼、軟部組織損傷の保存的療法で必要になる基本的な包帯法の技術習得を目的とする。前期では基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法を主に行い、後期では軟性材料及び、硬性材料(厚紙副子、クラーメル金属副子、アルミ副子、熱可塑性キャスト材、絆創膏固定法など)を利用した固定法を行う。授業は原則として実習室で行う。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①授業の概要説明、実習室使用上の注意点、実技材料配布 ②固定の目的、固定の種類、基本包帯法① ③基本包帯法②、③、④ ④基本包帯法⑤ ⑤基本包帯法⑥ ⑥基本包帯法復習 ⑦基本包帯法実技試験①、フィードバック ⑧基本包帯法⑦ ⑨基本包帯法⑧ ⑩基本包帯法復習 ⑪基本包帯法実技試験②、フィードバック ⑫冠名包帯法① ⑬冠名包帯法② ⑭冠名包帯法③ ⑮試験解説・冠名包帯法④ ⑯冠名包帯法実技試験①、フィードバック ⑰冠名包帯法実技試験②、フィードバック ⑱厚紙副子① ⑲厚紙副子② ⑳手技療法(ストレッチ)① ㉑手技療法(ストレッチ)② ㉒三角巾① ㉓熱可塑性キャスト材① ㉔熱可塑性キャスト材② ㉕硬性材料実技試験①、フィードバック ㉖硬性材料実技試験②、フィードバック			
学習上の注意	上下白衣を着用し身だしなみは整えること。 授業に関係ない私語や飲食、携帯電話の使用は無断退室は禁止とする。 包帯や固定材料は各自で管理し、授業の際に持参すること。		
評価方法	前期・後期評価は各種実技試験50%、期末試験50%で評価する(授業態度も加味する)		
教科書 ・ 参考書	教科書「包帯固定学」、「柔道整復学 実技編」(南江堂)		

2026J46	専門分野	形式	実技
授業科目名	整復実技2	単位数	2
担当教員	園部 英貴・吉田 裕輝・小枝 宰	履修年次	1年通年
【授業の概要・到達目標】 今後、柔道整復学を学ぶ際に、必要となる基礎的知識と基本的手技を修得する事を目標とする。人体における基本的用語などを学習すると共に、関節可動域の計測、四肢の周計・四肢長の計測などの実技を通して、客観的評価の姿勢を学び、将来の臨床に約立つテーマで授業を進めていく。また臨床実習前試験を通して臨床実習を行うにあたり柔道整復師としての心構えや身だしなみを問う。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①身だしなみ、施術者としての心構え ②医療面接、臨床前施術試験 ③包帯巻き器 ④基本包帯 ⑤手技療法① ⑥手技療法② ⑦バイタルサイン測定 ⑧実技試験、動的計測(徒手筋力テスト)① ⑨動的計測(徒手筋力テスト)② ⑩動的計測(日常生活動作) ⑪テーピング① ⑫テーピング② ⑬金属副子① ⑭金属副子② ⑮体力測定 ⑯触診方法、人体区分のランドマーク ⑰人体の区分線 ⑱頭頸部、体幹の骨 触診 ⑲上肢の骨 触診 ⑳下肢の骨 触診 ㉑血管(脈) 触診 ㉒触診 実技試験、フィードバック ㉓上肢長下肢長四肢周計(①) ㉔上肢長下肢長四肢周計(②) ㉕関節可動域測定(①) ㉖関節可動域測定(②)			
学習上の注意	実技の際には白衣着用、私語等を慎む事。また飲食等は禁止とする。必要に応じて短パンを持参すること。		
評価方法	前期評価(実技試験40%,期末試験60%また授業参加姿勢を加味する)。後期評価(実技試験20%,期末試験80%とする)。総合評価は前期50%,後期50%で算出する。		
教科書 ・ 参考書	教科書”『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会編”		

2026J47	専門分野	形式	実技
授業科目名	整復実技3	単位数	2
担当教員	熊谷 将史・又吉 啓太	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】 この授業では柔道整復師の日常業務において、比較的遭遇する機会の多い肋骨骨折や上肢の脱臼などについて授業を行う。それぞれの外傷によって特徴的な症状を把握し、整復操作、固定法、後療法など実践で役に立つ知識や技術の習得を目標とする。さらに、授業を通して医療に携わる者としての人間形成を養う。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①授業概要説明 ②肩鎖関節脱臼① ③肩鎖関節脱臼② ④肩鎖関節脱臼③ ⑤肩鎖関節脱臼④ ⑥実技試験 ⑦肩関節脱臼① ⑧肩関節脱臼② ⑨肩関節脱臼③ ⑩肩関節脱臼④ ⑪肩関節脱臼⑤ ⑫肘関節脱臼① ⑬肘関節脱臼② ⑭肘関節脱臼③ ⑮前期期末試験解答・解説 ⑯肘関節脱臼④ ⑰肘関節脱臼⑤ ⑱肘内障 ⑲MP関節脱臼① ⑳MP関節脱臼② ㉑指節関節脱臼① ㉒指節関節脱臼② ㉓指節関節脱臼③ ㉔肋骨骨折① ㉕肋骨骨折② ㉖肋骨骨折③			
学習上の注意	白衣は必ず正しく着用し授業に臨むこと。授業には積極的な姿勢で臨むこと。 授業中の私語や飲食、携帯電話の使用は行わない。体調の異常があれば遠慮なく申し出ること。		
評価方法	前期・後期評価(実技試験50%,期末試験50%また授業参加姿勢を加味する。)		
教科書 ・ 参考書	教科書柔道整復学(理論・実技)南江堂		

2026J48	専門分野	形式	実技
授業科目名	整復実技4	単位数	2
担当教員	小枝 幸	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 この授業では、臨床で多く遭遇する上肢の骨折として鎖骨骨折・上腕骨外科頸部骨折・前腕骨遠位端部骨折を中心に上げ、整復・固定の実技を行う。整復・固定における助手・術者の役割を十分に理解し、実際の臨床のイメージが出来るよう講義を進める。また、医療面接から柔整診断・整復・固定・後療法・予後の判断が出来るよう考える力を養う。認定実技審査後は上肢・体幹の骨折の理論も含め総復習を行う。＊柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①整復、固定の基礎（術者と助手の役割） ②鎖骨骨折のメカニズム ③鎖骨骨折の整復 ④鎖骨骨折の固定① ⑤鎖骨骨折の固定② ⑥上腕骨外科頸部骨折のメカニズム ⑦上腕骨外科頸部骨折の整復① ⑧上腕骨外科頸部骨折の整復② ⑨上腕骨外科頸部骨折の固定 ⑩前腕骨遠位端部骨折のメカニズム ⑪前腕骨遠位端部骨折の整復① ⑫前腕骨遠位端部骨折の整復② ⑬前腕骨遠位端部骨折の固定① ⑭前腕骨遠位端部骨折の固定② ⑮試験解説、前期のまとめ ⑯整復・固定復習（応用①） ⑰整復・固定復習（応用②） ⑱整復・固定復習（応用③） ⑲整復・固定復習（応用④） ⑳整復・固定復習（応用⑤） ㉑整復・固定復習（応用⑥） ㉒体幹骨折の診察① ㉓体幹骨折の診察② ㉔体幹骨折の固定 ㉕整復法・固定法・後療法（1） ㉖試験解説、整復法・固定法・後療法（2）			
学習上の注意	柔道整復学理論を理解した上で、積極的に反復して練習すること。 身だしなみ（白衣・爪・装飾品）を整え授業に臨むこと。		
評価方法	期末試験結果と授業態度・出席状況（期末試験の受験要件）を総合的に評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書”『柔道整復学理論編第7版』 『柔道整復学実技編第2版』 （社）全国柔道整復学校協会編（南江堂）”		

2026J49	専門分野	形式	実技
授業科目名	整復実技5	単位数	1
担当教員	難波 英樹・吉田 裕輝	履修年次	2年後期
【授業の概要・到達目標】 上肢の軟部組織損傷および頸部捻挫、腰部捻挫の診方と実技(検査法、治療法等)を修得する。 ＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①第1指MP関節側副靱帯損傷 ②PIP関節側副靱帯損傷① ③PIP関節側副靱帯損傷② ④マレットフィンガー① ⑤マレットフィンガー② ⑥実技試験、フィードバック ⑦頸部捻挫 ⑧腰部捻挫① ⑨腰部捻挫② ⑩腰部捻挫③ ⑪腱板断裂／上腕二頭筋長頭腱損傷 ⑫肘関節内側側副靱帯損傷 ⑬上腕骨外側上顆炎／T.F.C.C.損傷 ⑭実技試験、フィードバック ⑮試験の解答および解説			
学習上の注意	授業中の私語は慎むこと。 実技授業は白衣を正しく着用すること。		
評価方法	出席日数の要件を満たしていること。 履修態度、実技試験、後期末試験により総合的に評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書「柔道整復学 理論編」「柔道整復学 実技編」 全国柔道整復学校協会編(南江堂)		

2026J50	専門分野	形式	実技
授業科目名	整復実技6	単位数	2
担当教員	又吉 啓太・粕谷 泰右・吉田 裕輝	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】			
臨床上多く遭遇する外傷や国家試験問題にも頻出する分野でもある為、正確な解剖学的特徴とともに、理論的に整復・固定を理解をする。臨床症例と画像を紹介しながら理解を深め現場で行かせる知識とする。＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】			
①指骨骨折① ②指骨骨折② ③指骨骨折③ ④中手骨骨折① ⑤中手骨骨折② ⑥舟状骨骨折 ⑦ベネット骨折 ⑧前腕骨遠位端部骨折① ⑨前腕骨遠位端部骨折② ⑩前腕骨遠位端部骨折③ ⑪モンテギア骨折① ⑫モンテギア骨折② ⑬肘頭骨折 ⑭橈骨近位端部骨折 ⑮実技試験、フィードバック ⑯前腕両骨骨折 ⑰コーレス骨折① ⑱コーレス骨折② ⑲コーレス骨折③ ⑳コーレス骨折④ ㉑スミス骨折① ㉒スミス骨折② ㉓舟状骨骨折① ㉔舟状骨骨折② ㉕舟状骨骨折③ ㉖ベンネット骨折①			
学習上の注意	授業中の私語厳禁とする。積極的な姿勢で授業に臨むこと。		
評価方法	前期：前期末試験・実技試験の点数の平均値を前期評価とする。後期：後期試験の点数のみで判定する。 総合評価：前期評価と後期評価の平均値を総合評価とする。		
教科書 ・ 参考書	教科書柔道整復学 理論編／柔道整復学 実技編 （南江堂）		

2026J51	専門分野	形式	実技
授業科目名	整復実技7	単位数	2
担当教員	菱沼 良平	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】			
下肢(骨盤・大腿・膝・下腿・足部)の骨折・脱臼に対する整復法および固定法を習得します。各部位の解剖学的特徴を理解した上で、適切な鑑別診断と処置(整復・固定)を実践できる能力を養います。到達目標は以下の通りです。 1. 下肢の骨折・脱臼(股関節、大腿骨、膝関節、下腿骨、足関節、足部)の鑑別診断のポイントを説明できる。 2. 骨片転位や脱臼肢位に基づいた適切な整復操作をシミュレーションできる。 3. 患部の状態や治癒過程に応じた固定法(副子固定、包帯固定)を選択し、作成・実施できる。 ＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】			
①股関節脱臼の鑑別診断 ②股関節脱臼の治療 ③足根骨脱臼の鑑別診断 ④足根骨脱臼の治療 ⑤中足骨脱臼の治療 ⑥趾節間関節脱臼の治療 ⑦骨盤骨骨折の鑑別診断 ⑧骨盤骨骨折の治療 ⑨大腿骨近位部骨折の鑑別診断 ⑩大腿骨近位部骨折の治療 ⑪大腿骨骨幹部骨折の治療 ⑫大腿骨遠位部の治療 ⑬膝蓋骨骨折の治療 ⑭下腿部骨幹部骨折の治療① ⑮前期期末試験の解答、解説 ⑯下腿骨近位部骨折の治療 ⑰下腿骨骨幹部骨折の治療② ⑱下腿骨遠位部骨折の鑑別診断 ⑲下腿骨遠位部骨折の治療 ⑳足根骨骨折の鑑別診断 ㉑足根骨骨折の治療 ㉒中足骨骨折の鑑別診断 ㉓中足骨骨折の治療 ㉔趾骨骨折の治療 ㉕後期期末試験の解答、解説 ㉖膝関節脱臼の鑑別診断			
学習上の注意	実技室では白衣を着用し、身だしなみを整えること(爪の手入れ等)。実技はペアで行うため、患者役に対する配慮と安全管理を徹底してください。実技手順だけでなく、その根拠となる理論(整復理論編)も併せて復習することが必須です。		
評価方法	期末試験90%、実技試験10% 授業態度(安全配慮等)も評価に加味します。		
教科書 ・ 参考書	『柔道整復学 実技編』全国柔道整復学校協会 編(南江堂) 『柔道整復学 理論編』改訂第7版(南江堂)		

2026J52	専門分野	形式	実技
授業科目名	整復実技8	単位数	2
担当教員	園部 英貴	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 この授業では大腿部、膝関節部、下腿部、足部の軟部組織損傷やそれに対応するテーピング実技を行う。それぞれの外傷によって特徴的な症状を把握し、処置の方法や固定法、後療法など実践で役立つ学術や技術の習得を目標とする。 ＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①腰背部損傷に対する徒手検査法 ②膝のテーピング①(膝関節内側側副靱帯損傷) ③膝のテーピング②(膝関節内側側副靱帯損傷) ④膝のテーピング③(前十字靱帯損傷) ⑤足関節、膝関節のキネシオテーピング ⑥大腿部のテーピング(大腿部肉離れ) ⑦下腿部のテーピング①(下腿三頭筋肉離れ) ⑧下腿部のテーピング②(アキレス腱損傷) ⑨腰背部損傷に対するテーピング ⑩下肢徒手検査法まとめ ⑪テーピング理論(原理、目的、適応疾患、禁忌など) ⑫足関節のテーピング①(運動制限を目的とする) ⑬足関節のテーピング②(運動制限を目的とする) ⑭足関節のテーピング③(関節誘導を目的とする) ⑮下腿三頭筋、アキレス腱損傷について ⑯顎関節症 ⑰大腿部損傷について(肉離れ、打撲) ⑱膝関節損傷について(前十字靱帯損傷) ⑲膝関節損傷について(側副靱帯損傷) ⑳膝関節損傷について(半月板損傷) ㉑足関節外側側副靱帯損傷について ㉒大腿部に対する徒手検査 ㉓膝関節に対する徒手検査 ㉔下腿部に対する徒手検査 ㉕足関節に対する徒手検査 ㉖下肢損傷の鑑別法			
学習上の注意	実技の際には白衣着用、私語等を慎む事。また飲食等は禁止とする。必要に応じて短パンを持参すること。		
評価方法	各学期に実施される期末試験を80%,実技試験,授業参加姿勢を20%で評価する。		
教科書 ・ 参考書	教科書”『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会 監修(南江堂)”		

2026J53	専門分野	形式	実技
授業科目名	総合演習実技	単位数	2
担当教員	菱沼 良平・吉田 裕輝・小枝 幸・熊谷 将史・又吉 政士・園部 英貴	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 柔道整復師として遭遇頻度の高い外傷について、診察・検査・整復・固定の一連の臨床能力を修得します。既習の知識・技術を統合し、臨床現場に則した実践的な対応ができるようになることを目的とします。 到達目標は以下の通りです。 1.指定された骨折・脱臼・軟部組織損傷に対し、適切な診察・検査法を実施し、病態を推測できる。 2.各外傷に適した整復法および固定法(副子、テーピング、三角巾等)を選択し、実施できる。 3.模擬患者に対して適切な説明と配慮を行いながら、安全に実技を遂行できる。 ＊柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ①授業概要説明 ②第5指中手骨頸部骨折[アルミ副子掌側固定],手第2指PIP関節背側脱臼[アルミ副子背側固定]固定の能力 ③肩関節前方烏口下脱臼診察及び整復の能力 ④肩関節前方脱臼[局所副子・三角巾固定]固定の能力① ⑤肩関節前方脱臼[局所副子・三角巾固定]固定の能力② ⑥肩鎖関節上方脱臼診察及び整復の能力 ⑦肩鎖関節上方脱臼[テープ固定]固定の能力 ⑧肘関節後方脱臼診察及び整復の能力 ⑨肘関節後方脱臼[クラーメル副子・三角巾固定]固定の能力 ⑩肩腱板損傷診察及び検査の能力 ⑪上腕二頭筋長頭腱損傷診察及び検査の能力 ⑫大腿四頭筋打撲,ハムストリングス損傷(肉ばなれ)診察及び検査の能力 ⑬下腿三頭筋損傷(肉ばなれ)診察及び検査の能力 ⑭肘内障診察及び整復の能力 ⑮前期実技試験、フィードバック ⑯全項目実技① ⑰全項目実技② ⑱全項目実技③ ⑲全項目実技④ ⑳全項目実技⑤ ㉑全項目実技⑥ ㉒全項目実技⑦ ㉓全項目実技⑧ ㉔全項目実技⑨ ㉕全項目実技⑩ ㉖後期実技試験①			
学習上の注意	実技室では白衣を正しく着用し、医療従事者としての身だしなみを整えてください。実技は危険を伴う場合があるため、真剣な態度で臨むこと。また、ペア学習では患者役の学生に対する配慮を忘れないようにしてください。		
評価方法	期末試験(筆記)50%、実技試験50% 授業態度(積極性、安全管理、身だしなみ)を成績評価に加味することがあります。		
教科書 ・ 参考書	『柔道整復学 実技編』全国柔道整復学校協会 編(南江堂) 『柔道整復学 理論編』改訂第7版(南江堂)		

2026J54	専門分野	形式	実技
授業科目名	外傷予防実技	単位数	2
担当教員	園部 英貴・祁答院 隼人	履修年次	3年通年
【授業の概要・到達目標】 近年は『健康寿命』という概念が広く知れ渡っている。しかしそれに対する考え方や実践方法に関して導ける人材が少ない。そのため本授業では高齢者に対する転倒予防等の実技を通して、理解し実践できるようにする。また外傷の予防や再発防止について身につけることも学修する。＊柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 ① 日本における予防の概要と実際 ② 外傷の発生要因 ③ 外傷の発生要因とエネルギー供給系の基礎 ④ メディカルチェックー評価と測定 ⑤ 運動パフォーマンステストの測定方法 ⑥ プログラムデザインの基本 ⑦ ウォーミングアップ、クールダウンの理論と実際 ⑧ 柔軟性運動の理論と実際 ⑨ レジスタンストレーニングの理論と実際 ⑩ 有酸素性・無酸素性トレーニングのプログラムデザイン ⑪ プライオメトリックトレーニング、アジリティートレーニングの理論と実際 ⑫ 対象者別プログラムデザイン(こども・高齢者・女性) ⑬ 外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際(上肢) ⑭ 外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際(下肢) ⑮ 外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際(体幹) ⑯ 高齢者の転倒予防 ⑰ 高齢者の膝痛予防 ⑱ 高齢者の腰痛予防 ⑲ 高齢者の肩痛予防 ⑳ 高齢者の認知機能低下予防 ㉑ 高齢者の集団機能訓練① ㉒ 高齢者の集団機能訓練② ㉓ 高齢者の集団機能訓練③ ㉔ 高齢者の集団機能訓練④ ㉕ 高齢者の個別機能訓練① ㉖ 高齢者の個別機能訓練②			
学習上の注意	実技の際には白衣着用、私語等を慎む事。また飲食等は禁止とする。必要に応じてジャージを持参すること。 B5横書きレポート用紙を各自用意すること。		
評価方法	【前期(①～⑮)】 評価は、以下の通りとする。 期末試験(筆記):80% 授業中の発表、レポート、授業内課題(Googleフォームによる回答 第1回～第10回 各回2		
教科書 ・ 参考書	教科書『解剖学』『運動学』全国柔道整復学校協会編		

2026J55	専門分野	形式	臨床実習
授業科目名	臨床実習1	単位数	1
担当教員	熊谷 将史	履修年次	1年後期
【授業の概要・到達目標】 この授業では柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。 本校臨床実習施設内で実施する。 ・接骨院実習 ＊ 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】 接骨院の受付業務① 接骨院の受付業務② 患者来院時の受付業務① 患者来院時の受付業務② 院内の衛生管理について① 院内の衛生管理について② 院内の衛生管理について③ 施術の補助① 施術の補助② 施術の補助③ 施術の補助④ 患者の誘導① 患者の誘導② 物理療法についての理解 物理療法機器の種類について 物理療法機器の使用方法① 物理療法機器の使用方法② 物理療法機器の使用方法③ 物理療法機器の使用方法④ 患者に物理療法の実施① 患者に物理療法の実施② 患者に物理療法の実施③ 湿布作成と使用について			
学習上の注意	＊積極的に臨む事。 ＊ 白衣の乱れ、服装、頭髪、爪、装飾品など患者さまの立場から見て不適切な印象を与えられた場合には実習の参加を認めないことがある。また、実習中の態度が悪く患者に迷惑が及ぶ、又は迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。		
評価方法	1、欠席や遅刻は減点とする。2、実習時の授業態度を評価する。3、レポートなど各種提出物の期限を超えた場合は減点とする。		
教科書 ・ 参考書			
2026J56	専門分野	形式	臨床実習

授業科目名	臨床実習2	単位数	2
担当教員	熊谷 将史	履修年次	2年通年
【授業の概要・到達目標】			
この授業では柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。 ・実施場所:東京都内の施術所、本校臨床実習施設 ・実習の方法および内容:本校臨床実習施設において臨床の概要や業務について学ぶ、その上で外部の実習場所である施術所にて柔道整復師の業務を理解し実践する。 ・実習内容評価:各実習先での実習ごとに指導者の評価を受け、実習内容や実習で得た知識をまとめたレポートを提出する。 * 柔道整復師として接骨院で外傷治療をしていた経験を持つ担当教員による授業			
【授業計画】			
接骨院の受付業務① 接骨院の受付業務② 患者来院時の受付業務① 患者来院時の受付業務② 施術の補助① 施術の補助② 患者の誘導① 患者の誘導② 物理療法についての理解 物理療法機器の種類について 物理療法機器の使用方法① 物理療法機器の使用方法② 物理療法機器の使用方法③ 物理療法機器の使用方法④ ストレッチの種類について 下肢の機能解剖と評価について ハムストリングスの機能解剖について① ハムストリングスの機能解剖について② 臀部筋の機能解剖について 四頭筋の機能解剖について ハムストリングスストレッチ法① ハムストリングスストレッチ法② 殿筋ストレッチ法 殿筋ストレッチ法 四頭筋ストレッチ法① 四頭筋ストレッチ法②			
学習上の注意	*積極的に臨む事。 *白衣の乱れ、服装、頭髪、爪、装飾品など患者さまの立場から見て不適切な印象を与えられた場合には実習の参加を認めないことがある。また、実習中の態度が悪く患者に迷惑がかかる、又は迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。		
評価方法	1、欠席や遅刻は減点とする。2、実習時の授業態度を評価する。3、レポートなど各種提出物の期限を超えた場合は減点とする。		
教科書 ・ 参考書			
0	0	形式	0
授業科目名	0	単位数	0

担当教員	0	履修年次	0
【授業の概要・到達目標】			
0			
【授業計画】			
0			
学習上の注意	0		
評価方法	0		
教科書 ・ 参考書	0		